

習志野市スポーツ推進計画事業 評価集計

令和8年7月1日

第1回習志野市スポーツ推進審議会

報告(2)資料

No.	取組名	担当課	R05 評価	R06 評価	R07 評価
1	スポーツ推進委員の活動への支援 (スポーツ奨励大会の開催含む)	生涯スポーツ課	B	B	B
2	市民スポーツ指導員の地区活動実施と支援	生涯スポーツ課	B	B	B
3	スポーツ協会・スポーツ少年団への支援 (市民総合体育大会含む)	生涯スポーツ課	A	A	A
4	スポーツ施設の管理・運営	生涯スポーツ課	A	A	A
5	総合型地域スポーツクラブへの活動支援	生涯スポーツ課	A	B	B
6	トップチームやアスリートとの地域交流事業の推進	生涯スポーツ課	B	B	B
7	スポーツエキスパート推進事業(部活動支援事業)	学習指導課	A	A	A
8	体力・運動能力の向上に向けた指導の推進	学習指導課	A	A	A
9	「遊・友スポーツランキングちば」への参加の奨励	学習指導課	A	A	A
10	毎日楽しく体を動かす遊びの推進	こども保育課	A	A	A
11	家庭・保護者との連携・推進	こども保育課	A	A	A
12	地域・ボランティアとの連携・推進	こども保育課	A	A	A
13	感覚統合グループ(4・5歳児)	ひまわり発達相談センター	C	C	C
14	幼児家庭教育学級	中央公民館	A	B	B
15	親と子のふれあい講座	中央公民館	A	C	B
16	地域子育て支援拠点事業	子育てサービス課	A	A	A
17	市内障がい者スポーツ大会の開催	障がい福祉課	C	C	B
18	寿学級の活動	中央公民館	A	B	B
19	あじさいクラブ連合会(老人クラブ)主催 各種スポーツ大会への支援	高齢者支援課	C	B	C
20	高齢者スポーツ大会の開催	高齢者支援課	C	B	B
21	一般介護予防事業	健康支援課	B	B	A
22	てんとうむし体操の推進	高齢者支援課	C	B	C
23	ニュースポーツ用具の貸出	生涯スポーツ課	A	A	A
24	市民スポーツ指導員養成講座の実施	生涯スポーツ課	C	C	A
25	体力・運動能力測定事業の実施	生涯スポーツ課	C	C	B
26	健康づくり推進協議会主催「習志野発見ウォーク」の開催	健康支援課	C	C	C
27	健康なまち習志野推進月間の実施	健康支援課	B	C	A
28	健康に関する講座	中央公民館	B	B	B
29	市内で活動しているトップチーム等の試合開催の支援	生涯スポーツ課	B	B	B

習志野市スポーツ推進計画事業 評価集計

令和8年7月1日
第1回習志野市スポーツ推進審議会
報告(2)資料

No.	取組名	担当課	R05 評価	R06 評価	R07 評価
30	オービックシーガルズへの協力・支援	生涯スポーツ課	A	A	A
31	スポーツ大会、イベントの情報発信	生涯スポーツ課	A	A	A
32	ツイッターを利用した情報発信	生涯スポーツ課	A	A	A
33	転倒予防体操推進員の育成・活動支援	高齢者支援課	A	B	A
34	健康づくり推進員の育成・活動支援	健康支援課	A	A	A
35	大学との連携協働による健康なまちづくりの推進	健康支援課	B	B	B
36	学校体育施設(プール含む)の開放	生涯スポーツ課	B	B	B
37	公共建築物再生計画の実施	生涯スポーツ課	B	A	A
38	文化スポーツ振興財団への活動支援	生涯スポーツ課	A	A	A
39	健康マイレージの実施	健康支援課	C	A	B
40	スポーツ団体等による市民まつりにおける スポーツコーナー運営支援	生涯スポーツ課	A	A	A
41	千葉ロッテマリーンズへの協力・支援	生涯スポーツ課	A	A	A
42	施設予約システムの充実	生涯スポーツ課	A	A	A
43	東京2020オリンピック・パラリンピック関連施策の実施	総合政策課			
44	スポーツボランティア活動の場や情報の提供	生涯スポーツ課	B	A	A
45	ウォーキング等の環境の整備	公園緑地課	B	B	B
<令和7年度実施事業について> 計画最終年度となる令和7年度の取組評価については、A評価が増加し、C評価が減少する結果となった。 本計画期間は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各事業において実施方法等を見直すなどの対応が必要であったが、各課がコロナ禍における生活習慣の変化を踏まえながら、取り組みを推進していくことができたと考えられる。 一方で指導者や参加者の高齢化、スポーツ施設等の整備、効果的な周知方法など課題も多くあることから、今後のスポーツの推進に向け、引き続き関係各課で情報を共有し、取り組んでいく必要がある。		評価(A)	23	21	24
		評価(B)	12	16	16
		評価(C)	9	7	4
		評価(一) ※実施できなかった取り組み	1	1	1
		総事業数	45	45	45

※評価基準について

A:目標達成 B:目標未達だが進捗または現状維持 C:基準値未達

部分→令和6年度と評価が異なる箇所

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	1	取組名	スポーツ推進委員の活動への支援 (スポーツ奨励大会の開催含む)				担当課		
							生涯スポーツ課		
概要	誰もが気軽にスポーツに参加できる機会をつくるため、スポーツ推進委員連絡協議会と連携をとってスポーツ奨励大会を年5回開催する。								
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進	
	■施策1 ■施策2 ■施策3 ■施策4 ■施策5			□施策6 □施策7 □施策8			■施策9 ■施策10 □施策11 □施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します	
目標	スポーツ推進員とともに奨励大会や参加しているスポーツ事業を広報やHP等にて情報発信し、より多くの市民にスポーツに興味を持たせ、奨励大会へ参加することを目指し、参加者の人数を増加させます。								
評価指標		評価指標に対する実績値の判断			基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）		
大会参加人数		人数が増えていれば進捗している			1,233人		1,500人		
	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度	令和7年度	
目標値		1,250人		1,300人		1,350人	1,400人	1,500人	
実績値	—	—		510人		651人	686人	419人	
決算（参考額）	—	—		—		—	—	—	
評価		C		C		B	B	B	
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満								
	令和2年度				令和3年度				
成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、奨励大会を実施することができなかった。しかし、スポーツ推進委員の活動内容について広報誌やHP等での周知を図った。				新たな大会の在り方を検討し、3密を避けた開催・運営が可能か検討したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年度も奨励大会を実施することができなかった。				
課題	来年度以降については、新しい生活様式に合わせて新たな大会の在り方を検討し、3密を避けた開催・運営が可能か検討した上で、更なるスポーツの推進を図っていく必要がある。				2年間のブランクからの脱却として、新型コロナウイルスの感染状況に注視しながら、奨励大会を一つでも二つでも計画、実施していく必要がある。				
	令和4年度				令和5年度				
成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、奨励大会4大会を実施することができた。【歩け歩け大会（82人）、ニューススポーツフェスティバル（150人）、パークゴルフのついで（123人）、コミュニティバレーボール大会（155人）】				ニューススポーツフェスティバルの開催数を増やし、5大会実施することができた。【オール習志野歩け歩け大会（82人）、ニューススポーツフェスティバルin summer（153人）、パークゴルフのついで（68人）、コミュニティバレーボール大会（188人）、ニューススポーツフェスティバルin winter（160人）】				
課題	奨励大会は再開したが、感染防止の観点から「密対策」と会場のスムーズな運営を考慮し、人数制限を行いながら再開したため、参加者数を伸ばせなかった。次年度以降「密対策」は解除されるが、実施会場の収容人数や当日運営にあたるスポーツ推進委員の人数の関係もあり、現状の行い方では参加人数を無制限には増やせない。運営方法の見直しや種目の選定等も改めて見直す必要がある。				奨励大会を運営するにあたり、スポーツ推進委員の人数と高齢化が課題となっている。しかしながら大会参加人数が目標値に達していないため、募集人数を増やすことが可能な大会を精査し、実施種目を含む運営方法について引き続き検討する。また、大会への参加者が固定化していることから、新規参加者を獲得するため、幅広い年齢層に働きかけていく必要がある。				
	令和6年度				令和7年度				
成果	令和6年度は、新たに「みんなでモルック」を企画し、計5大会実施することができた。【オール習志野歩け歩け大会（138人）、ニューススポーツフェスティバル（191人）、パークゴルフのついで（70人）、コミュニティバレーボール大会（183人）、みんなでモルック（104人）】				令和7年度は、パークゴルフが雨天中止、コミュニティバレーボール大会が選挙の関係で規模縮小、当日は大雪の影響で中止となり、3大会の実施となった。みんなでモルックでは、多世代のコミュニティを図ることに重点を置き、参加者を市内在住・在勤・在学者に絞ったことにより、当日は小学生から80代まで幅広い年代の参加につながった。【オール習志野歩け歩け大会（146人）、ニューススポーツフェスティバル（194人）、みんなでモルック（79人）】				
課題	スポーツ推進委員の人数と高齢化が引き続き課題となっている。大会参加人数は、微増ではあるものの目標値には達していないことから、募集人数が増えるような広報活動の在り方他、社会情勢を加味した大会の企画・運営を検討する。また、大会への参加者が固定化していることから、新規参加者を獲得するため、幅広い年齢層に働きかけていく必要がある。				令和7年度の委嘱替えにより、スポーツ推進委員の人数は3名増員したものの引き続き、人数と高齢化が課題となっている。令和6年度より、モルックを取り入れたことで、新たな新規参加者を獲得できているが、一方でパークゴルフのついでには、申込者が減少しており、今後の在り方について、検討していく必要がある。				
施策目標値に対する総合評価					次期計画に向けての改善点・留意点				
コロナ禍の影響によりスポーツ推進委員の活動環境が大きく変化した。事業再開後は参加者数の増加が課題となる一方、運営を申込制へ変更したことで参加人数の見通しを立てやすく、効率的な運営や委員の負担軽減につながった。今後は、参加促進とあわせて、スポーツ推進委員が活動しやすい持続可能な運営体制の充実が求められる。					単に、スポーツ奨励大会の参加者数の増加に努めるだけでなく、スポーツ推進委員の負担軽減及び活動環境の充実を図り、参加者のみならず、運営を担う委員自身のウェルビーイング向上に資する持続可能な活動体制の構築に努める。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	2	取組名	市民スポーツ指導員の地区活動実施と支援				担当課	
							生涯スポーツ課	
概要	スポーツの普及・振興や、スポーツレクリエーションを通したコミュニティ活動の推進を図るため、市内16地区で年間2事業以上のスポーツ活動の実施を、市民スポーツ指導員連絡協議会に委託し、その事務局として活動を支援する。 また、指導員の資質向上を図るため、研修会を実施している。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	■施策1 ■施策2 ■施策3 ■施策4 ■施策5			■施策6 □施策7 □施策8		■施策9 ■施策10 □施策11 □施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを旨します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを旨します
目標	市民スポーツ指導員の活動を広報やHP等にて情報発信し、より多くの地域住民の参加を目指した地区活動を推進します。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断			基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）	
地区事業参加人数		増えていれば進捗している			11,492人		12,500人	
	令和2年度	令和3年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
目標値		5,000人		11,500人	11,800人	12,100人	12,500人	
実績値	2,680人	2,670人		5,342人	8,630人	9,674人	10,995人	
決算額（参考）	922,460円	492,102円		972,000円	975,000円	970,000円	996,000円	
評価		C		C	B	B	B	
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満							
成果	令和2年度				令和3年度			
	感染症対策を講じるため、屋外スポーツを中心とした18事業の実施（R1年度実績：81事業）となった。コロナ禍における「市民スポーツ指導員地区活動のルール」作成や感染症対策に必要な消毒用アルコール等の購入など、今後コロナ禍でも安心して事業実施、参加できるよう取り組んだ。なお、感染症による社会情勢の自粛傾向を鑑み、イベントの情報発信は実施しなかった。				市のコロナ禍におけるイベント等の活動指針に基づき活動した結果、16事業（R2年度実績：18事業）と減少したが、実施地区は4地区から12地区と増え、コロナ前の各地区でのスポーツ活動の実施に戻りつつある。制限のある中でも、多くの方に事業を知っていただけるよう、広報紙及びHPによる活動内容の発信を新規で行ったことで参加者数の減少は10名に留まったと考えられる。			
課題	緊急事態宣言等により1事業も実施できなかった地区もあり、大幅に実施事業数が減少したことに伴い参加者数も減少した。次年度以降はルールに従って事業実施していく。併せて、広報やHPによる活動内容の発信を行っていく。				感染症対策として人数制限を設けている事業が多いため、参加人数を増やすためには、実施回数の増加が必須であるが、人員や予算の都合から困難である。令和4年度は各事業が満員となるよう情報発信に努める。			
成果	令和4年度				令和5年度			
	制限が緩和され、44事業（R3年度実績：16事業）に増加し、参加人数も増加したが、令和元年度の実績までには達していない。前半、新型コロナウイルス感染症の感染防止の影響が残った事と、積極的に事前PRをした場合、想定以上に参加者が多くなってしまった時に、当時の急な運営変更により課題が出る事がわかり、HPやツイッターによる積極的な情報発信は行わなかった。				新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、各地区活動数も62事業（R4年度実績：44事業）と活発であった。また、公民館や寿学級、学校との合同事業も実施し、幅広い年代に向けた事業を実施した。しかしながら、運営時の人員不足を懸念し、事業に関する情報発信を積極的に行わなかったため、令和4年度より参加者数は増加したが、参加者は固定化され、目標値に達することはできなかった。			
課題	情報発信の方法について、引き続き市民スポーツ指導員と検討していく。各地のイベント内容を吟味し、可能と思われるイベントについては事前の情報発信を試行してみる。				情報の発信方法を充実させ、新規参加者の獲得と参加者数の増加を目指す中で、地区毎の指導員数に差があること、事業に出席する指導員が固定化されていることから、運営側の人手不足が懸念される。			
成果	令和6年度				令和7年度			
	荒天での中止もあったが、各地区活動数は60事業（R5年度実績：62事業）と活発であった。各地区合同の事業も増え、幅広い年代に向けた事業を実施し、参加者数が増加した。また、事業の周知方法として学校への事業周知を行ったが、目標値に達することができなかった。				地区活動開催日に雨天が多く中止があった影響で、各地区活動数は当初計画していた61事業から52事業（令和6年度実績：60事業）と減少した。しかし今年度から新規種目を行う地区が増えるなど、各地区において工夫がなされており、参加者数は増加した。			
課題	広報習志野等紙媒体やSNS等の電子媒体を使用し、幅広い年代がイベントを「知る」こと参加できるように事前にイベント内容等を吟味し、情報発信を試みる必要がある。				複数地区合同事業や学校・公民館等との連携事業、新規種目の導入など、多様な参加機会を創出し、幅広い年代が継続的に参加できる魅力あるイベントづくりを推進する必要がある。			
施策目標値に対する総合評価					次期計画に向けての改善点・留意点			
コロナ禍からの回復過程において事業実施体制の再構築と活動の活性化は着実に進んでおり、施策は一定の成果を上げていると評価できる。一方で、目標達成に向けては、市民スポーツ指導員の活動内容を効果的に発信する仕組みの強化や、運営体制の充実による受入れ環境整備を進め、新規参加者の獲得と継続的な参加につなげていくことが必要である。					次期計画においては、単なる事業数の拡大だけでなく、「新規参加者数」「継続参加率」「年代別参加状況」など、事業効果をより具体的に把握できる指標設定を行い、地域住民にとって身近で参加しやすいスポーツ環境のさらなる充実を図ることが求められる。			

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	3	取組名	スポーツ協会・スポーツ少年団への支援 (市民総合体育大会含む)				担当課	
							生涯スポーツ課	
概要	スポーツ協会加盟団体によるジュニア育成（普及・技術向上）事業実施を支援する。 スポーツ少年団が行う大会、イベント、研修等について、支援し、ジュニア期におけるスポーツの充実を図る。 スポーツ協会や各種団体が開催するスポーツ教室に働き盛り世代・子育て世代が参加できるように支援する。 スポーツ協会が主催する市民総合体育大会を開催し、市民のスポーツ意欲の向上、地域住民の交流等を図る。 スポーツ協会や加盟競技団体、スポーツ少年団の活動に対して支援、充実を図り、競技スポーツ等の推進を図る。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	■施策1 ■施策2 □施策3 □施策4 □施策5		■施策6 □施策7 □施策8		■施策9 □施策10 □施策11 □施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します	施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します	施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します		
目標	①スポーツ振興協会とスポーツ協会の共催事業であるジュニア育成事業の参加延べ人数を増やします。 ②スポーツ少年団が行う大会、イベントの充実を図り、実施回数を維持します。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）		
①参加人数 ②実施回数		①増加していれば進捗している ②維持していれば進捗している		①1,501人 ②12回		①1,600人 ②12回		
目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
		①1,520人 ②12回	①1,540人 ②12回	①1,560人 ②12回	①1,580人 ②12回	①1,600人 ②12回		
実績値	①653人 ②4回	①1,280人 ②10回	①1,786人 ②12回	①1,899人 ②11回	①1,923人 ②12回	①2,740人 ②12回		
決算額（参考）	—	—	—	—	—	—		
評価		C	A	A	A	A		
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未滿							
成果	令和2年度			令和3年度				
	ほとんどの大会が、新型コロナウイルスの為実施できなかったが、一部規模を縮小しながら実施できた種目もあった。種目の特性に応じたガイドラインが各団体ごとに作成され、整ってきている。すべて一律で中止するのではなく、状況に応じて柔軟に大会運営を行っていくような方向性が示されてきた。			新型コロナウイルス感染対策に配慮しながらも各競技で大会、交流会が少しずつ開催された。大会、交流会があることで競技者のモチベーションの向上につながると考える。				
課題	不特定多数が集まるものや、宿泊を伴う研修など、感染防止の観点から実施方法の検討を行う。競技ごとや、人数のをコンパクトにするなど実施方法を工夫し、競技力や体力の向上を目指したい。			いかにしてコロナ禍前の通常活動へ戻すか。また、コロナ対応を機に、今までと変えられる部分を検討していく必要がある。引き続き各団体への支援を行い大会の実施に向けたサポートを行う。ジュニア育成事業については、活動の充実に向けた広報等の支援を行う。				
成果	令和4年度			令和5年度				
	スポーツ少年団が行う大会、イベントは12事業すべてを実施できた。各団体への支援は継続し、内容を充実させていく。ジュニア育成事業の参加延べ人数では目標値を200名以上も上回った。			スポーツ少年団が行う大会、イベントは雨天中止が1事業あったため11事業の開催となったが、他はすべて実施できた。各団体への支援は継続し、引き続き内容を充実させていく。ジュニア育成事業の参加延べ人数では昨年度より上回る結果となった。				
課題	競技力向上に向け、幼少期に様々な動きを経験することが有効であることを知ってもらうため、広報活動の拡充を図る。スボ少事業への参加を通して、他種目交流や参加者同士のコミュニケーションの拡充を図る。			競技力向上に向け、幼少期に様々な動きを経験することが有効であることを知ってもらうため、広報活動の拡充を図る。また、種目によって人数が増加する競技もあるが減少する競技もあるため、スボ少事業への参加を通して、他種目交流や参加者同士のコミュニケーションの拡充を図る。				
成果	令和6年度			令和7年度				
	スポーツ少年団が行う大会、イベントは12事業すべてを実施できた。各団体への支援は継続し、内容を充実させていく。ジュニア育成事業では、今年度も増加傾向となった。			スポーツ少年団が行う大会、イベントは12事業すべてを実施できた。各団体への支援は継続し、内容を充実させていく。ジュニア育成事業では、今年度も増加傾向となった。				
課題	競技力向上に向け、幼少期に様々な動きを経験することが有効であることを知ってもらうため、広報活動の拡充を図る。スボ少事業への参加を通して、他種目交流や参加者同士のコミュニケーションの拡充を図る。			幼少期の多様な運動体験やスポーツ少年団での交流は一定程度行われているものの、地域社会とのつながりや社会参加をより一層促進するため、参加機会の拡充や広報活動の充実を図る。				
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点				
コロナ禍による活動制限があったものの、スポーツ協会・スポーツ少年団への継続的な支援により、市民総合体育大会をはじめとする各種スポーツ活動の再開・定着が図られた。				地域スポーツの振興や青少年健全育成に一定の成果が認められる一方、少子化や指導者不足への対応が今後の課題である。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	4	取組名	スポーツ施設の管理・運営				担当課							
							生涯スポーツ課							
概要	袖ヶ浦体育館、東部体育館、袖ヶ浦テニスコート、秋津テニスコート、秋津サッカー場、秋津野球場、実籾テニスコート、茜浜パークゴルフ場、芝園テニスコート・フットサル場等のスポーツ施設の管理・運営													
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進						
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5			□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 ■施策12								
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指す		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指す						
目標	多様化する市民ニーズに対応したきめこまやかな施設運営が必要とされることを踏まえ、民間活力によるより質の高い維持管理や利用者へのサービス提供の提案が期待できることから指定管理者制度を導入し管理・運営を行う。													
評価指標			評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）							
指定管理施設数			施設数を維持することが進捗している。		9施設		9施設							
目標値	令和2年度	令和3年度		令和4年度	令和5年度		令和6年度	令和7年度						
		9施設		9施設	9施設		9施設	9施設						
	実績値	9施設		9施設	9施設		9施設	9施設						
決算額	145,690,905円	150,313,015円		149,445,686円	149,722,704円		160,483,366円	153,564,670円						
評価		B		B	A		A	A						
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満													
成果	令和2年度				令和3年度									
	公益財団法人習志野市スポーツ振興協会を指定管理者として、上記9施設の管理を行った。				公益財団法人習志野市スポーツ振興協会を指定管理者として、上記9施設の管理を行った。									
	課題 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休業要請を行ったことから、利用料収入は大幅に減少した。令和2年度については、国の交付金を活用し、支援金を交付することで対応したが、損失補償の対応について、財源も含めて来年度以降どのように対応していくか、市の対応が未定であることが課題である。				新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数や利用時間の制限をかけながら施設の管理運営を行った。利用者や教室参加者にアンケートを行い、継続的なサービスの向上に取り組んでいる。その中で、各施設によって対応等に多少の差がみられる部分があるため、特に接遇などの職員研修に取り組む等、窓口業務強化へ向けた取組みをしていくことが課題である。									
成果	令和4年度				令和5年度									
	指定管理者が行った利用者アンケートの結果、施設の満足度については96%の方から普通以上の満足度との回答であった。残りの4%の方の意見は、施設の老朽化に関する意見であり、引き続き施設の安全・安心な運営、老朽化対策について取り組んでいく。				秋津サッカー場給湯器の修理や茜浜パークゴルフ場の松枯れ対応など前回アンケート内容を反映した改修を実施した。また、指定管理者が行った利用者アンケートの結果、施設の満足度については95%の方から普通以上の満足度との回答であったため、引き続き利用者の意見に沿った対応の検討、老朽化対策及び施設の安全・安心な運営の取り組みを行う。									
	課題 利用者アンケートからリピーターの利用者が多いことが分かったが、今後より多くの市民に利用していただくためには、今利用していない人のニーズや、施設の空き状況の情報発信といった運営方法の工夫など、さらなる検討が必要である。				利用者より施設によって職員の対応が異なるとの意見があったため、指定管理者へ運営方法の見直しを促す。また、軽微な対応で改善できる意見については、利用者満足度向上のため指定管理者と連携し取り組んでいく。老朽化が著しい箇所については、安心・安全な施設利用が保たれるよう、継続して対応の検討をする。									
成果	令和6年度				令和7年度									
	公益財団法人習志野市文化スポーツ振興財団を指定管理者として、上記9施設の管理を行った。				公益財団法人習志野市文化スポーツ振興財団を指定管理者として、上記9施設の管理を行った。									
	課題 老朽化が著しい箇所については、引き続き、安心・安全な施設利用が保たれるよう、優先順位を精査し、対応をする。また、指定管理者が行った利用者アンケートの結果、施設内の案内表示の分かりやすさの評価が50%にとどまっており、軽微な対応で改善できる意見については、指定管理者と連携し、見直しを行う。				施設老朽化が著しい状況にあるため、安心・安全な施設利用が保たれるよう、優先順位を精査し、財政当局と協議を進めていく。また、施設の予約状況の周知についての情報発信等工夫が必要である。									
施策目標値に対する総合評価					次期計画に向けての改善点・留意点									
例年、施設利用者に対して実施しているアンケートにおいて、利用満足度は安定して高い評価を受けている。また、同アンケートにおいて施設の老朽化に対する意見も頂いているが、限られた予算の中で優先順位をつけ対応していくことができた。					スポーツ施設の管理・運営を行っていくため施設の修繕及び工事が必要となる。施設の現状を踏まえ優先順位の検討を進める必要がある。									

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	5	取組名	総合型地域スポーツクラブへの活動支援				担当課			
							生涯スポーツ課			
概要	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会を構成する3クラブ（習志野イースタンスポーツクラブ、習志野ベイサイドスポーツクラブ、習志野中央スポーツクラブ）について、施設予約の優先利用許可や消耗品購入等により、各クラブの活動と運営を支援している。生涯スポーツ課が事務局となり組織している連絡協議会では、相互の連携、地域クラブ関係者の親睦および新規クラブの育成を図り、地域スポーツの振興に寄与することを目的としている。									
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進		
	■施策1 ■施策2 □施策3 ■施策4 ■施策5		■施策6 □施策7 □施策8		■施策9 □施策10 □施策11 □施策12					
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指す		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指す		
目標	各クラブの情報発信に協力し、幼児期・ジュニア期、働き盛り世代・子育て世代等、幅広い世代へのクラブ活動の参加促進を図ります。									
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）				
3クラブの活動参加者数の合計		人数が増えていれば進捗している		28,223人		30,000人				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度				
目標値		25,516人	28,200人	28,800人	29,400人	30,000人				
実績値	21,631人	24,315人	28,711人	28,915人	28,147人	27,004人				
決算（参考額）	146,695円	298,598円	149,735円	297,121円	149,634円	295,731円				
評価		C	A	A	B	B				
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未滿									
成果	令和2年度			令和3年度						
	例年と同様に施設予約の優先利用許可、消耗品の支給を行ったが、新型コロナウイルスにより活動できない種目が多く、特に社会人や学生が参加する平日夜間の種目が施設の時間短縮の影響を大きく受けており、参加者が減少した。また、更新不可能になっていた中央SCのHPの新規立ち上げ、市HPの総合型地域SCページの見直し等を行い情報発信を行った。			昨年度と比較すると、各団体の種目ごとに感染対策を行ったうえで活動する頻度を増やしたり、公民館等の団体と共同で活動をしたりしたことで活動参加者数を増やすことができた。しかし、結果的には会員の高齢化から会員数は減少傾向となった。						
課題	過去6年間で最低人数のH29年度25,516人（東部体育館休館時）を大幅に下回ったことから、新型コロナウイルスにより離れてしまった会員に戻ってきてもらえるような支援を検討する必要がある。新規参加者の獲得については、引き続き情報発信方法を検討していく。			各クラブ、会員の高齢化の問題を抱えており、現役世代である40代、50代の会員の減少が見受けられる。会員登録につながるよう各団体への支援を行っていく。						
成果	令和4年度			令和5年度						
	各クラブが感染症対策を行ったうえで、スポーツまつり等、地域住民が参加できるスポーツイベントを開催した。また、市のLINEやTwitterを利用し、市内での認知度を上げる取り組みを行った。結果として、HPへのアクセス数は増加した。			各クラブ主催でスポーツまつり等、地域住民が参加できるスポーツイベントを開催した他、6年ぶりに3クラブ合同の交流パークゴルフ大会を開催したことで、クラブ間での情報交換を行うことができた。また、庁内のテレビモニターに広告を掲載し、市内での認知度向上を目指した。						
課題	新規会員が入会したきっかけとして、現会員からの紹介が多く、年齢に偏りがある。SNS等での呼びかけの他、若年層へのアプローチ方法を検討していく必要がある。			各クラブの共通課題として、会員の高齢化による時期役員の担い手不足を課題としている。現会員の若年層が所属クラブに対して興味関心が薄くような提案の検討と、新規会員が参加しやすい環境づくりの検討を行う。						
成果	令和6年度			令和7年度						
	例年と同様に施設予約の優先利用許可、消耗品の支給を行った。また、テレビ広報なるほど習志野の放映にて総合型地域スポーツクラブの紹介を行った。			各クラブ主催でスポーツまつり等、地域住民が参加できるスポーツイベントを開催した他、例年と同様に施設予約の優先利用許可、消耗品の支給を行った。						
課題	3クラブの活動参加人数が基準値を下回ってしまった。各クラブ、会員の高齢化による退会者が増えていることから、現会員からの紹介だけでなく、SNS等の呼びかけを積極的に行い、若年層や親子層へクラブ活動やスポーツまつりに関する発信を行い、新規参加者の獲得を狙う。			参加人数の減少については、会員の高齢化による退会者増加が主な要因と考えられる。今後は、幅広い世代への周知を目的として、SNS等を活用した効果的な情報発信を進めるとともに、親子で参加しやすいイベント内容の充実を図り、新規会員の獲得につなげていく。						
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点						
コロナ禍による活動制限の影響を受けたものの、総合型地域スポーツクラブへの継続的な支援により、地域住民のスポーツ活動機会の確保と地域交流の推進が図られた。				会員の高齢化や新規参加者の確保が課題となっており、今後はSNS等を活用した情報発信や若年層へのアプローチ強化が必要である。						

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	6	取組名	トップチームやアスリートとの地域交流事業の推進				担当課	
							生涯スポーツ課	
概要	千葉ロッテマリーンズやオービックシーガルズ、阿武松（おうのまつ）部屋による子ども対象の教室やイベント等の開催を支援している。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	■施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5			□施策6 ■施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを 目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを 目指します
目標	地域交流イベント参加者の人数を増やします。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断			基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）	
地域交流イベント参加者人数		増加していれば進捗している			97人		105人	
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
目標値		97人	100人	100人	105人	105人		
実績値	-	-	- (中止のため)	20人	38人	69人		
決算（参考額）	-	-	-	-	-	-		
評価		C	C	B	B	B		
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満							
	令和2年度			令和3年度				
成果	イベントの実施は難しかったが、今後の開催に向けての情報収集などを行った。プロ野球の開幕を市のツイッターでPRするなどコロナ禍でもできることを精査し情報提供を行うことで支援していきたい。			令和2年度に引き続き、イベントの実施は難しかったが、今後の開催に向けての情報収集などを行った。プロ野球の開幕を市のツイッターに投稿、市庁舎ハミング階段にてポスターやユニフォームを掲示しPRするなどコロナ禍でもできることを精査し情報発信を行った。				
課題	イベントの実施は難しい状況であった。コロナ禍で様々なイベントが無くなったことから、連絡を取り合う機会が減っている。新型コロナウイルス感染症の終息後、再びスポーツを盛り上げるために、意識的に関係をつないでおく必要がある。			令和2年度に引き続き、イベントの実施は難しい状況であった。コロナ禍で様々なイベントが無くなったことから、担当者や連絡を取り合う回数が減ってしまった。再びスポーツを盛り上げるために、意識的に関係をつないでおく必要がある。				
	令和4年度			令和5年度				
成果	令和3年度に引き続き、プロ野球の開幕を市のツイッターに投稿、市庁舎ハミング階段にてポスターやユニフォームを掲示しPRするなどの情報発信を行った。9月にアメリカンフットボールの試合を5日間に渡って行い、子ども向けのアトラクションや屋台を用意するなど、身近な施設で気軽に観戦できるイベントを企画した。			評価を達成することはできなかったが、新型コロナウイルス感染症拡大後、初めて阿武松部屋によるイベントを実施できた。併せて、令和4年度に引き続き、プロ野球の開幕を市のツイッターに投稿等でPRするなどの情報発信を行った。				
課題	5日のうち、4日が雨天となり、子ども向けアトラクションを中止せざるを得なかった。野外の難しさを感じた。 【観客数5日間2,313人】			イベント参加者数が戻ってきていないため、担当者や連絡を取り合う回数を増やし、再びスポーツを盛り上げるために、新たな企画等を検討する必要がある。				
	令和6年度			令和7年度				
成果	評価を達成することはできなかったが、昨年度よりも増加した。また、単年度開催とはなるが、元プロ野球選手を招いた少年少女ふれあい野球教室や習志野市選抜チームとのドリームマッチを実施したドリーム・ベースボールを開催した。			目標値を達成することはできなかったが、昨年度よりも増加した。また、千葉ロッテマリーンズ公式戦への市民招待（4回）や第一カッターフィールドでオービックシーガルズのホームゲーム（4回）を開催するなど、身近な場所で気軽に観戦できる機会を提供した。				
課題	阿武松部屋だけでは、人数や回数に限度があるため、他のトップチームとの交流イベントを設けることも検討する必要がある。			教室やイベントの実施については、阿武松部屋のみとなっているため、引き続き、他のトップチームとの交流イベントを設けることも検討する必要がある。				
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点				
コロナ禍により実施が制限されたものの、阿武松部屋との連携による交流事業を実施できた。今後は、多様なトップチーム・アスリートとの連携拡大が課題である。				多様なトップチーム・競技団体との連携強化を図るとともに、継続的に交流機会を創出できる実施体制の構築に努める。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	7	取組名	スポーツエキスパート推進事業（部活動支援事業）				担当課			
							学習指導課			
概要	専門的指導力を持つ指導者を必要とする中学校に対し、部活動支援員を派遣する。 専門的な指導力を備えた指導者を必要とする市内中学校の要望に対し、スポーツエキスパートを紹介する。									
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進		
	■施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5			□施策6 □施策7 □施策8			□施策9 ■施策10 □施策11 □施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します		
目標	専門的な指導者を必要とする中学校に対し、外部指導者を派遣し、生徒の競技力向上を目指す。									
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）				
①部活動支援員数 ②派遣回数		部活動支援員数及び派遣回数が、維持もしくは増加していれば進捗している		①8名 ②192回		①8名 ②192回				
目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度				
		①8名 ②192回	①8名 ②192回	①8名 ②192回	①8名 ②192回	①8名 ②192回				
実績値	①8名 ②192回	①8名 ②192回	①8名 ②192回	①8名 ②192回	①8名 ②192回	①8名 ②192回				
決算額（参考）	980,530円	980,530円	980,530円	980,530円	980,530円	980,530円				
評価		A	A	A	A	A				
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満									
成果	令和2年度			令和3年度						
	昨年度に引き続き、各学校1名+1名の計8名の派遣ができた。コロナ禍での制限された部活動において、専門性のある指導者がいることで効率的な活動や若手の指導力向上、生徒への専門的な技能の習得に有効であった。			令和2年度に続き、各学校1名+1名の計8名の派遣ができた。派遣時期については、社会情勢や感染状況を考慮しながら、学校生活様式に合わせて活動を行った。制限がある中でも、専門的指導力を持つ指導者から指導を受けたことで、技能の向上が図られ有効であった。						
課題	指導者を必要とする市内中学校の要望にどう応えていくかが課題である。引き続き部活動指導員の人数や派遣回数について検討する。			各学校1名+1名の計8名である。引き続き支援員の増員や派遣回数について検討する。						
成果	令和4年度			令和5年度						
	コロナ禍で活動内容に制限があった時期もあったが、年間を通して活動できた。専門性のある指導者がいることで効率的な活動や若手の指導力向上、生徒への専門的な技能の習得に有効であった。			外部指導者を派遣し、各学校で指導の中心となって活動していただいた。継続的に同じ指導者がいることで、学区の小学生においては安心して入部を検討できることがメリットとしてあげられる。また、教員の負担軽減にもつながっている。						
課題	指導者を必要とする市内中学校の要望にどう応えていくかが課題である。引き続き部活動指導員の人数や派遣回数について検討する。			各学校1名+1名の計8名外部講師を派遣しているが、学校から支援員を増やせないかと要望がある。実績がなければ増員できないため、実績の積み重ねが必要である。						
成果	令和6年度			令和7年度						
	前年度までの継続的な取組の成果として、各学校において外部指導者がより深く学校活動に関与するようになり、専門的な技術指導に加え、部活動のマネジメント面でも貢献が見られた。生徒の技能向上や意欲の向上に加え、教員との連携もよりスムーズになり、部活動全体の質が向上した。			学校や教員との連携が前年度よりもより進展が見られた。その結果として、「生徒のやりがいの向上」や「意欲の維持向上」が見られた。また、保護者の理解も昨年度よりも浸透し、今後の重要事項である「受益者負担」にも一定の理解を得られるようになった。						
課題	引き続き、市内中学校からの支援員増員の要望があるが、実績がなければ対応が難しい状況が続いている。今後も安定した派遣体制を維持しつつ、より多くの実績を積み重ねることで、支援体制の拡充につなげていく必要がある。			保護者等への情報提供をより強化することで、児童・生徒ならびに家庭の不安感の解消に努めることで、実績を高めること、本事業の拡充を進めていく。						
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点						
改革推進期間にあたる令和7年度までにおいては、1中学校において複数部活動の地域展開を開始していくという本市の計画通りの成果となった。また、学校や顧問との連携が徐々に強まり、生徒の競技力向上も着実に見られるようになった。				令和11年度には市内中学校部活動の休日の活動の全てを地域展開する計画のもと、引き続き指導者人材の確保、児童・生徒・保護者への周知活動の強化に努める。						

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	8	取組名	体力・運動能力の向上に向けた指導の推進			担当課 学習指導課	
概要	体力・運動能力の向上を目指して、授業や行事、部活動等で発達段階に応じた指導を推進する。						
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進	柱③	支えるスポーツの推進
	■施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します	施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦することを目指します	施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します	
目標	体力・運動能力の向上を目指して、学校体育の授業以外の行事や部活動等の体育的活動を通して、児童生徒の体力向上を図る。						
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）	
学校体育の授業以外の体育的活動実施校数		実施校数が維持できていれば進捗している		小学校16校 中学校7校		小学校16校 中学校7校	
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
目標値		小学校16校 中学校7校	小学校16校 中学校7校	小学校16校 中学校7校	小学校16校 中学校7校	小学校16校 中学校7校	
実績値	小学校16校 中学校7校	小学校16校 中学校7校	小学校16校 中学校7校	小学校16校 中学校7校	小学校16校 中学校7校	小学校16校 中学校7校	
（参考） 決算参照	—	—	—	—	—	—	
評価		A	A	A	A	A	
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満						
	令和2年度			令和3年度			
成果	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、体育的行事や部活動において様々な活動が制限され、行事の見直しや部活動の停止等の対応をせざるを得なかった。しかし、コロナ禍の新しい生活様式に合わせた体育的活動や行事を各校が工夫して行った。運動会・体育祭へ向けた練習では学年やクラスごとに規模を縮小して実施、中学校の部活動も再開することができた。			昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、体育的行事や部活動において様々な活動が制限されたが、状況に応じて規模の縮小や内容を変更するなど工夫して行った。 小学校：業間体育（サーキット、縄跳び、鉄棒等） 球技大会、マラソン大会の実施、運動会練習 中学校：部活動、球技大会、大縄跳び等 体育祭練習			
課題	感染症予防を施した上での体力向上が課題である。体力運動能力調査結果を活用し、児童生徒の体力向上のための課題を明らかにするとともに、コロナ禍における活動の幅を広げる必要がある。			新型コロナウイルス感染症拡大の影響でどの程度まで行っていいのかの判断が難しい。新体力テスト等の結果をもとに、各学校の児童生徒の実態を把握し、体力・運動能力の向上に向けて取り組むことが課題である。			
	令和4年度			令和5年度			
成果	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で活動の制限がせれる時期もあったが、状況に応じて規模の縮小や内容を変更するなど工夫して行った。 小学校：業間体育（サーキット、縄跳び、鉄棒等） 球技大会、マラソン大会の実施、運動会練習 中学校：部活動、球技大会、大縄跳び等 体育祭練習			新型コロナウイルス感染症拡大の影響も5月で終わり、学校体育行事などでは制限なく保護者の観覧を受け入れた。また、全校で以下に記載の種目を実施することができ、体力・運動能力の向上と子どもの意欲向上につながった。 小学校：業間体育（サーキット、縄跳び、鉄棒等） 球技大会、マラソン大会の実施、運動会練習 中学校：部活動、球技大会、大縄跳び等 体育祭練習			
課題	学校の教育活動全体を通じて運動に親しむ学校が増えている。各校がそれぞれの状況に応じて、引き続き体力・運動能力の向上に向けて取り組むことが課題である。			コロナの影響もあり、全く運動を行わなくなったグループが増えて、体力の二極化が顕著となってきた。それらのグループに運動する機会を与えていくことが課題である。			
	令和6年度			令和7年度			
成果	新型コロナウイルス感染症の収束以降、各校で制限のない体育的活動が定着し、運動会や体育祭、各種競技大会などを従来通りの形式で実施することができた。小学校では業間体育や球技大会、中学校では体育祭や部活動など、学年を超えた活動が行われ、児童生徒の体力・運動能力の向上と、他者との関わりを深める良い機会となった。また、保護者の参観機会が増えたことで、地域や家庭との連携も強化された。			全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、市内小中学校ともに全国・県と比較しても体力の合計点は高水準を維持していることから、各学校における学校体育以外での体力向上を目指した活動に一定の成果が見られていると考える。			
課題	コロナ禍で運動習慣が途絶えた一部の児童生徒において、依然として体力の低下や運動への消極的な姿勢が見られる。今後は体力の二極化を是正するため、日常的に運動する機会を確保し、運動が苦手な児童生徒にも寄り添った支援を進めていくことが求められる。			運動する機会や場所が徐々にコロナ禍前に戻りつつあるものの、依然として体力の低下や運動への消極的な姿勢が一部の児童生徒で見られ、体力の二極化には課題が引き続き見られている。			
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点			
コロナ禍の中、運動制限がある中で示された目標であったことから、達成度は非常に高いものとなった。二極化など一部生徒の体力に対する課題が明確となっていることから、より現実的な数値をもとにした目標設定が必要である。				目標設定がより具体的な体力に関する指標となるよう検討する。			

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	9	取組名	「遊・友スポーツランキングちば」への参加の奨励			担当課			
						学習指導課			
概要	千葉県教育委員会が体力向上と社会性の育成を目的に実施している「遊・友スポーツランキングちば」への参加を奨励し、児童生徒の積極的な運動習慣の育成を推進する。								
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進				
	■施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12				
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します	施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します	施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します			
目標	「遊・友スポーツランキングちば」についての周知を図り、エントリー校の増加を目指す。健康・体力向上につながる取り組みの一つとして進めていく。								
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）			
参加校数		参加校数が増加すれば進捗		小学校6校 中学校2校		小学校9校 中学校4校			
目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			
		小学校6校 中学校2校	小学校6校 中学校2校	小学校7校 中学校3校	小学校8校 中学校3校	小学校9校 中学校4校			
実績値	小学校1校 中学校0校	小学校2校 中学校1校	小学校16校 中学校7校	小学校16校 中学校7校	小学校16校 中学校7校	小学校16校 中学校7校			
決算額（参考）	-	-	-	-	-	-			
評価		C	A	A	A	A			
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満								
成果	令和2年度			令和3年度					
	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和元年度に比べて参加校が大幅に減ったが、1校参加し県のランキング入りを果たした。			新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、参加校については、ほとんど増加しなかった。東習志野小学校は、年間3回の募集に対してすべて応募した。					
課題	「遊・友スポーツランキングちば」に挑戦したくなるような呼びかけの工夫が必要である。種目内容等を周知するだけでなく、学年、学級づくりなど体育の時間以外での活用や、部活動単位での参加、積極的に参加している学校等の紹介をしていく。			体育主任会議や教務主任会議などで積極的に呼びかけを行い、周知する必要がある。種目によっては、体育的行事や部活動とタイアップするなど学校に積極的に紹介していく。					
成果	令和4年度			令和5年度					
	市内小・中学校すべての学校で積極的かつ継続的に行った。4校が各部門で1位となり県教育委員会より表彰を受けた。運動機会の確保の点でも大きな成果があった。			昨年度に引き続き、全学校で実施することができた。体育主任研修で周知したことで全校での実施が今年度も可能となり、体育以外での運動機会を増やすことができた。					
課題	次年度においても、市内小・中学校で実施していくことを確認した。児童生徒に運動習慣を育成できるよう、実施方法や目標を明確にし意欲の向上に努める。			体力・技能ともに二極化が顕著となっている。運動を行わないグループがより運動を楽しめる入り口として、この取り組みを活用し、参加する児童生徒を増やしていく必要がある。					
成果	令和6年度			令和7年度					
	市内小・中学校全23校での実施が継続され、取り組みが定着しつつある。これまでの単学年や単クラスでの参加に加えて、全校で取り組む学校が増えたことにより、学校全体としての一体感や運動への意識の高まりが見られた。児童生徒の運動習慣の定着にも寄与し、継続的な体力向上への意欲喚起が図られた。			昨年度に引き続き、全学校で実施することができた。体育以外での運動機会の拡充にも寄与している。全校で取り組む学校が昨年に続き複数校見られ、学校全体として運動への意識の高まりが見られた。					
課題	運動を行うことに消極的な児童生徒へのアプローチが今後の課題である。各学校での工夫を共有し、運動に苦手意識を持つ子どもたちも楽しんで参加できるような取り組み内容の工夫や、成功体験の提供を促していく必要がある。			体力の二極化は引き続きの課題であることから、運動に苦手意識を持つ児童生徒の参加について、各学校の取り組みを共有していく。					
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点					
非常に高い評価となった。子供の運動習慣という課題に対して、体育以外での運動機会の確保が課題となっていることからこの高水準の評価を維持できるよう努める。				実施校は全校を継続できているため、実施種目数にも目を向ける目標を検討する。					

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	10	取組名	毎日楽しく体を動かす遊びの推進				担当課										
							こども保育課										
概要	外遊びの時間の確保や年齢や発達に応じた環境づくりを通して、積極的に体を動かす態度や基礎的な運動能力を促し、多様な動き（バランス・移動・用具等の操作）を引き出し、経験できるようにする。																
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進									
	■施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5			□施策6 □施策7 □施策8			□施策9 □施策10 □施策11 □施策12										
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを旨します									
目標	保育施設の中で、多様な動きを引き出す設定の工夫をし、体を動かす活動の推進を図ります。体を動かす時間の確保に努める。																
評価指標			評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）										
一日あたりの体を動かして遊んだ時間			時間が増えていれば進捗している		78分		85分										
目標値	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和7年度								
			75分		78分		80分		85分								
実績値	73分		74分		80分		84分		89分								
決算額	-		-		-		-		-								
評価			C		A		A		A								
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満																
成果	令和2年度				令和3年度												
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、園庭や所庭の使用を分散する等、制限をしたことで、体を動かす時間が下回った。しかし、密を避けながら、個人で取り組める運動遊びの設定を工夫する等、体を動かす意欲や態度を維持継続できるようにしたことで、運動能力の向上を図ることができた。				体を動かしたくなる遊びの場の設定や用具の活用、遊びのきっかけ作りを立案、実施することを意識してきた。引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各施設学年やクラス毎など密を防ぐ工夫を継続しながらであったが、体を動かす楽しさを感じたり繰り返し運動遊びに取り組もうとする姿につながった。												
課題	新型コロナウイルス感染症拡大防止が続く中でも、多様な動きを引き出す設定や用具活用の工夫、体を動かす時間の確保をしていく必要がある。				密にならない方法を工夫しながら、引き続き体を動かして遊ぶ時間の確保と環境、教材の工夫を図る。												
成果	令和4年度				令和5年度												
	各施設で密にならないように場の工夫（時間差や入れ替え制など）をしながら、体を動かしたくなるような環境作りを意識してきたことで数値があがった。また、発達に応じた遊具の提供や繰り返し取り組めるように年齢ごとに活動時間を分けたことで、十分に体を動かす心地よさや満足感を味わったり挑戦意欲にもつながったりした。				新型コロナウイルス感染症が5類移行となり、体を動かして遊ぶ時間や場の確保が戻ったことで、数値が上がった。発達に応じた運動遊びを引き続き取り入れたことに加え、日々の遊びで異年齢クラスとの時間や場の共有、意図的な交流を通して、子ども自らが体を動かしたくなる環境が再現し、体を動かす楽しさや意欲につなげることができた。												
課題	育ちに応じた「体を動かして遊べる」環境や時間の工夫をしながら、教育・保育計画の立案、実施を図る。				研修を通した運動遊びの学びを取り入れながら、引き続き多様な動きを経験し、楽しめる教育・保育内容を推進していく。												
成果	令和6年度				令和7年度												
	子どもの関心や意欲を引き出し、体を動かすことを楽しめる遊びや活動を取り入れ、子どもが主体的に遊ぶ教育・保育内容に努めてきたことで、目標値を達成できた。幼保合同特別研修に、体を使う遊びを取り入れ、職員自身が楽しさを感じたことで、教育・保育に取り入れる動機付けとなり、遊びの充実にもつながった。				園内研究や外部研修による学びを施設内で共有し実践したことで、子どもが主体的に遊ぶことができる教育・保育活動の充実につながった。また環境を工夫することで多様な動きの経験につなげることができた。												
課題	引き続き多様な動きを引き出すような、遊びや活動を継続的、段階的に取り入れ、体を動かす教育・保育内容の推進を図る。				子どもが思わず取り組みたくなる、楽しんでいるうちに自然に体を動かす等の経験を増やしていくことができる活動や環境の工夫ができるよう、教育・保育内容を推進する。												
施策目標値に対する総合評価					次期計画に向けての改善点・留意点												
各施設での指導の充実により、楽しく体を動かす遊びの日常的な実践ができ、最終目標値に設定した85分を超える89分の実績結果となっている。					今後は、楽しく体を動かすきっかけがより子どもも主体となり、様々な動きを経験できるよう、活動や環境等の工夫をすることで質を高めていく。												

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	11	取組名	家庭・保護者との連携・推進				担当課	
							こども保育課	
概要	行事等や親子が一緒に体を動かす機会を通して体を動かす楽しさや大切さを実感できる発信方法の工夫をし、親子で体を動かす機会を作り実施する。 外部講師を招いて、職員が学んだ内容を保護者へ啓発したり、実践したりする機会を設ける。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	☒ 施策1 ☐ 施策2 ☐ 施策3 ☐ 施策4 ☐ 施策5		☐ 施策6 ☐ 施策7 ☐ 施策8		☐ 施策9 ☐ 施策10 ☐ 施策11 ☐ 施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します
目標	体を動かす楽しさや大切さを実感できるよう各施設から発信し、親子で体を動かす機会を増やします。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）		
①体を動かす発信回数 ②親子で体を動かした回数		①と②の合計数が増えている		134回		150回		
目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
		134回	138回	140回	145回	150回		
実績値	17回	19回	165回	189回	170回	194回		
	-	-	-	-	-	-		
評価		C	A	A	A	A		
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満							
成果	令和2年度			令和3年度				
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、運動会等、実施できた行事については、親子で体を動かすことができた。各施設で、予定していた保育参観が参加型ではなく、参観型に変更したことで、回数が下回っている。しかし、家庭の中で親子が体を動かす機会がもてるよう資料配布や写真等の掲示をして発信力に努めた。			新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、親子と一緒に体を動かす機会（運動会・保護者参観）を設けることが難しかったが家庭に向け、「体を動かすことの大切さや楽しさ」、「親子で体を動かして遊べる取り組み」を資料やホームページなどを利用して発信してきた。また、降園時に園での運動遊びやダンスなどの取り組みや子どもの姿を意識的に伝えるよう努めた。				
課題	各施設で実施している活動や体を動かすことの大切さを家庭に発信していくことの工夫をしていく必要がある。			引き続き、体を動かすことの大切さや楽しさ、園での取り組みなど家庭に分かりやすく発信していく。				
成果	令和4年度			令和5年度				
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため制限されていたことが少しずつ緩やかになったことで、親子で体を動かす機会（運動会、保護者参観）を再開した。園だよりや掲示物などでも体を動かす楽しさを感じられるような情報提供を発信したことで、親子ダンスなどを通して楽しく体を動かすことにつながった。子育てふれあい広場でも園児と一緒にダンスを踊り地域の親子も体を動かすきっかけになった。			新型コロナウイルスが5類に移行したことで、保護者が参加する行事内容の再開や、地域の未就園児対象の子育てふれあい広場や自園開放の回数や利用者が増えたことで数値が上がった。また、施設と保護者の連絡ツールにICTシステムを導入したことで、保護者への発信がしやすくなり、体を動かす遊びの内容や子どもの様子を通して保護者の運動遊びへの関心につながった。				
課題	園だよりや掲示物など、具体的な内容の発信を通して、体を動かすことの楽しさや大切さを伝えていく。			引き続き行事内容に親子で体を動かす遊びを取り入れたり、親子で楽しめる体を動かす遊びを発信したりして、体を動かすことへの関心につなげていく。				
成果	令和6年度			令和7年度				
	日々の教育・保育内容をアプリで発信する際、写真を添えることで、体を動かす楽しさを親子で共有することにつながった。保護者は、子どもが園で体を動かすことを楽しんでいる様子を知ること、体を動かすことへの関心を抱ききっかけとなっている。親子で体を動かす機会は、未就園児親子が利用することもセンターや子育てふれあい広場などで、継続的に実施をすることができた。（R6年度は、施設数が3カ所減ったため、実績値が下がったと考える。）			園で取り組んでいる体を動かす遊びや親子ふれあい遊びなどを、保護者に配信したりホームページで紹介したりすることで、家庭でも取り入れて親子で楽しむ機会をもつことができた。参観日や運動会で、親子体操や親子競技を行うことで、親子と一緒に体を動かす楽しさを味わうことができた。				
課題	低年齢（未就園児）から体を動かす楽しさを親子で味わえることが、後の運動への興味関心にも関係すると思う。引き続き、未就園児親子が楽しく体を動かして過ごせる内容を工夫していく。また、在園児親子へは、体を動かすことへの関心につなげていく発信内容や行事内容を工夫していく。			縄跳びやボール遊び等、園での援助方法や取り組みを保護者に具体的に発信することで、家庭との連携を図り、体を動かす機会を増やしていくことができるようにする。				
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点				
低年齢から親子で体を動かす楽しさを味わうことを意識して実践してきたことや、保護者にわかりやすい発信を工夫してきたことにより、目標値としていた150回を大幅に超えた194回の実績となった。				低年齢児親子からの活動の充実と、家庭での取り組みにもつながる活動の発信を継続し、保護者が大切さを感じ施設でも家庭でも親子で体を動かす機会を増やしていく。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	12	取組名	地域・ボランティアとの連携・推進				担当課	
							こども保育課	
概要	地域やボランティア等、運動講師を招いて、計画的に体を楽しく動かす機会をつくり、指導に生かします。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	■施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します
目標	地域の方や運動講師等を招いて、職員や子ども、親子への直接指導をしてもらい、体を動かす楽しさが体験できる機会を推進します。直接指導する機会を増やします。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断			基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）	
講師等からの指導の回数		回数（または講師からの指導を職員が実践）が増えていけば進捗している。			28回		35回	
目標値	令和2年度	令和3年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
		28回		30回	32回	33回	35回	
実績値	12回	12回		17回	32回	68回	59回	
決算額（参考）	-	-		-	-	-	-	
評価		C		C	A	A	A	
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満							
成果	令和2年度				令和3年度			
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設内に外部者の出入りを制限したことから、実績数が下回った。感染対策を講じた研修等を市で実施し、各施設で実践したことで、体を動かす指導力向上につながった。				3年度も新型コロナウイルス拡大予防のため、外部講師による子どもへの直接指導が実施が難しく各施設職員が学びを広めた。様々な動きを引き出す指導を学び実践することで、教育の質の向上につながった。			
課題	様々な動きを引き出して体を動かす実践が実施できるような講師研修等を感染対策を講じて実施していく必要がある。				年間計画の中で、体を動かす楽しさが感じられる研修を実施するとともに、職員も引き続き研修に参加し学べるような環境を整える必要がある。			
成果	令和4年度				令和5年度			
	外部講師による研修の実施を行った。参加した職員が学びを実践し、一緒に体を動かすことができ、実績数が昨年度よりも増加した。教育・保育の質の向上にもつながった。				外部講師による子どもへの指導や職員研修を実施した施設が増えたことで、実績値が上がった。講師から学んだ内容は、職員間で報告・共有することで、その後の運動遊びに取り入れていくことができた。			
課題	職員全体での研修の実施と各施設内での研修を引き続き計画しながら、学びを積み重ね実践していく。				運動遊びを研修テーマにしている施設や講師依頼の研修に他施設の職員も学べる機会も取り入れ、各施設の教育・保育内容につなげ実践していく。			
成果	令和6年度				令和7年度			
	地域やボランティア等の運動講師を招く施設や回数が増え、実績値が上がった。体を動かす遊びや運動について、より知識や技術を学び、教育・保育内容を高めていこうとする、職員の意識が向上した。				講師から学んだ内容を職員間で共有することで、その後の運動遊びに取り入れていくことができた。また、講師によるこどもへの直接指導をその後の教育・保育に生かすことで継続的実践ができた。			
課題	引き続き、地域や外部との連携を図り、職員の指導力の向上につなげていく。				野球やアメリカンフットボール等の地域団体によるプログラムを積極的に取り入れる等、様々なスポーツへの興味関心をもつことで意欲的に体を動かす機会としていく。			
施策目標値に対する総合評価					次期計画に向けての改善点・留意点			
外部講師を招いて体を動かす活動が増えただけでなく、その学びを日々の保育指導に生かすことができた。講師指導回数も35回の目標値を大幅に超えた59回の実績値となった。					地域団体によるプログラムを積極的に取り入れていくことで、様々なスポーツへの興味関心を高めていく。			

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	13	取組名	感覚統合グループ（４・５歳児）				担当課	
							ひまわり発達相談センター	
概要	体の使い方が不器用な児や運動遊びに苦手を感じている児に対して、作業療法士と理学療法士が専門的な評価を実施し、集団活動の中で各々の状態に合わせた運動課題を実施する。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	■施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します	施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します	施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します		
目標	全身を使った運動課題や必要な感覚刺激を取り入れることで、子どもが主体的に体を動かすことが出来るように働きかける。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）		
①グループ活動実施数 ②参加人数（延）		維持していれば進捗している		①12回 ②68人		①12回 ②70人		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
目標値		①12回 ②70人	①12回 ②70人	①12回 ②70人	①12回 ②70人	①12回 ②70人		
実績値	①10回 ②44人	①12回 ②72人	①12回 ②56人	①0回 ②0人	①0回 ②0人	①0回 ②0人		
決算額（参考）	—	—	—	—	—	—		
評価		C	C	C	C	C		
《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満								
	令和2年度			令和3年度				
成果	体の動かし方がぎこちなかったり、道具の操作が未熟なお子さん等を対象にしている。保護者アンケートや活動後のアセスメントでは、体を動かすことに抵抗を示さなくなったり、運動することの楽しさを感じたりする等の効果が出た。			コロナ禍で参加を見合わせた人がいたため、昨年より参加人数の実績値が減少している。コロナによる制限が多い日常の中で、親子とも楽しめる活動を提供し、満足度が高かった等の反響があった。				
課題	グループ終了後、保護者が継続して取り組める課題の提供を検討していく。			日頃から体を動かすことに親しむ機会を多く取り入れられるように、保護者や所属先に提案していく。				
	令和4年度			令和5年度				
成果	体調不良等での欠席が多く、参加者全員がそろって活動することがほとんどなかった。（16名欠席）保護者と子どもで体を動かす課題を取り入れたことで、子どもへの理解にもつながった。			感覚統合に関するアプローチを集団活動から個別活動に移行したため実施はなかった。個々に必要な運動課題等については、所属先での毎日の集団活動の中で取り入れてもらった。				
課題	運動課題を通して、親子のコミュニケーションを高めていく。			集団活動の実施については、所属先での状況等も踏まえて検討していく。				
	令和6年度			令和7年度				
成果	令和5年度から感覚統合に関するアプローチを集団活動から個別活動に移行したため実施はなかった。個々に必要な運動課題等については、センターの個別支援で保護者にアドバイスをを行っている。また、巡回相談時を通じてクラスの担任に伝える等、所属先と連携を取り、毎日の活動の中で必要な動きを取り入れてもらうように依頼を行った。			令和5年度から感覚統合に関するアプローチを集団活動から個別活動に移行したため実施はなかった。個々に必要な運動課題等については、センターの個別支援で保護者にアドバイスをを行っている。また、巡回相談時を通じてクラスの担任に伝える等、所属先と連携を取り、毎日の活動の中で必要な動きを取り入れてもらうように依頼を行った。				
課題	集団活動の実施については、所属先での状況等も踏まえて検討していく。			集団活動の実施については、所属先や周辺状況、必要性等も踏まえて検討していく。				
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点				
令和5年以降は、インクルーシブ社会に適応するようアプローチ方法が集団から個別へとシフトチェンジを行った。				幼少期に必要な身体の動きやアプローチについては、所属先との連携や保護者支援等を通じて広めていけるとよい。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	14	取組名	幼児家庭教育学級				担当課	中央公民館
概要	3歳児を持つ親を対象に、親子での遊びや体操をプログラムに取り入れます。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	■施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します	施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します	施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します		
目標	幼児家庭教育学級において、親子で遊びや体操など体を動かす活動につながるプログラムを実施する。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）		
①体を動かすプログラム回数 ②体を動かすプログラム参加人数		①回数が増えていけば進捗している ②人数が増えていけば進捗している		①回数 8回 ②人数 128人		①回数 10回 ②人数 160人		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
目標値		①回数 9回 ②人数 144人	①回数 9回 ②人数 144人	①回数 9回 ②人数 144人	①回数 10回 ②人数 160人	①回数 10回 ②人数 160人		
実績値	①回数 2回 ②人数 22人	①回数 3回 ②人数 43人	①回数 11回 ②人数 113人	①回数 13回 ②人数 179人	①回数 15回 ②人数 94人	①回数 10回 ②人数 104人		
決算（参考額）	18,000円	32,000円	90,000円	121,000円	135,800円	112,200円		
評価		C	B	A	B	B		
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未達							
	令和2年度			令和3年度				
成果	バランスボールエクササイズや身体の話の講座を行った。講座を通して、適度な運動の実施や体操の大切さを認識することができた。			バランスボールや体操など室内でできる運動を行い、適度な運動の実施、体操の大切さを確認した。また、親子のスキンシップを図ることができた。				
課題	コロナ禍で体を動かす講座が制限されたことから、実施回数が大きく減ってしまった。次年度以降については、安全に配慮しつつ、実施回数を増やしていく。			令和2年度に引き続き、学級全体の回数を半数とし、内容が制限することとなったことから、実施回数を増やすことができなかった。次年度以降も引き続き、安全に配慮し、実施回数を増やしていく。				
	令和4年度			令和5年度				
成果	親子のできる運動やリズムダンスなどを行い、親子のスキンシップを図ることができた。また、参加した親を対象にヨガやフラダンスの講座を実施し、心身ともにリフレッシュすることで、適度な運動の大切さを学んだ。			親子のできる運動や体操、ダンス等を行い、親子のスキンシップを図ることができた。日曜日開催の講座では、複数名の父親も参加した。参加した保護者を対象にヨガやフラダンスの講座を実施することで、心身ともにリフレッシュし適度な運動の大切さを学んだ。				
課題	次年度以降も引き続き、安全に配慮しながら、親子で一緒に体を動かすプログラムを中心に参加人数の増員、実施回数を増やしていく。			次年度以降も引き続き、安全に配慮しながら、親子で一緒に体を動かすプログラムを中心に参加人数の増員、実施回数を増やしていく。また、土・日曜日開催の講座を設けて、父親や働いている母親にも講座を受けてもらいやすいように計画を進める。				
	令和6年度			令和7年度				
成果	保護者を対象としたヨガ等に加えて、原則親子分離型の講座であるが、子どもの運動能力を上げる遊び方、親子参加型の体操、サーキット運動、リトミックを実施した。また、開催日を工夫し父親の参加機会を設けた。			・親子で参加型の体操、リトミック、フラダンス等を実施し、親子のふれあいやスキンシップを図ることができた。また、土日開催の講座では父親も参加し子どもたちも楽しそうに運動していた。 ・子育て中の母親向けに体操やヨガの講座を実施し、リフレッシュを図ることができた。				
課題	今後も受講者の安全に配慮し、体を動かすことの大切さを伝えていく。今後も、父親の参加を促すため、休日開催も検討する。			・参加人数の確保とプログラムの充実が課題である。 ・引き続き、受講者が参加しやすいような開催日程や親子で楽しめる運動の企画を検討する必要がある。				
施策目標値に対する総評価				次期計画に向けての改善点・留意点				
・親子で遊んだり体操するなど、体を動かす活動につながるプログラムを実施することができた。 ・参加人数は目標値を下回ったが、概ね目標を達成できたと評価する。				引き続き安全に配慮しながら、父親・母親が参加しやすいスケジュール編成を図り、創意工夫あるプログラムを実施する。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	15	取組名	親と子のふれあい講座				担当課		
							中央公民館		
概要	2歳児を持つ親を対象に、親子での遊びをプログラムに取り入れます。								
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進	
	■施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12				
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します	
目標	親と子のふれあい講座において、親子で遊びや体操など体を動かす活動につながるプログラムを実施する。								
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）			
①体を動かすプログラム回数 ②体を動かすプログラム参加人数		①回数が増えていれば進捗している ②人数が増えていれば進捗している		①12回 ②164人		①14回 ②190人			
目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			
		①13回 ②175人	①13回 ②175人	①13回 ②175人	①14回 ②190人	①14回 ②190人			
実績値	実施無し	①4回 ②63人	①11回 ②138人	①13回 ②260人	①8回 ②153人	①13回 ②193人			
決算額（参考額）	—	43,000円	48,000円	85,000円	78,200円	94,400円			
評価		C	C	A	C	B			
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満								
成果	令和2年度			令和3年度					
	実施無し			バランスボールやなわとびを組み合わせたサーキット運動や親子でリトミックを行った。 親子でのコミュニケーションを図り、また、同年代の親子と楽しく体を動かすことができた。					
課題	コロナの影響で、上半期に予定していた館については講座が中止、下半期に予定していた館については、体を動かす講座を自粛した影響で、実施することができなかった。 次年度以降については、安全に配慮しつつ、実施回数を増やしていく。			感染予防対策をとり、体を動かす講座を実施することができたので、次年度以降も安全に配慮し、親子で体を動かす内容を増やしていく。					
成果	令和4年度			令和5年度					
	マット・なわとび等を組み合わせたサーキット運動、親子での体操・リトミックを行い、親子のコミュニケーションを深めることができた。 また、コロナ禍で同年代の親子との交流が減っている中、親同士の交流や子どもたちが楽しく遊ぶ機会を提供できた。			ヨガマット、ボール等を着見合わせたサーキット運動や親子での体操、リトミックパラバルーンを行い、楽しく体を動かし、親子のコミュニケーションを深めながら同年代の親子と交流することができた。 また、土曜日に開催した講座では父親や祖父母、兄弟の参加も多く、家族で楽しむことができた。					
課題	次年度以降も引き続き、安全に配慮しながら、親子で一緒に体を動かすプログラムを中心に参加人数の増員、実施回数を増やしていく。			次年度以降も引き続き、安全に配慮しながら、親子で一緒に体を動かすプログラムを中心に参加人数の増員、実施回数を増やしていく。 また、土・日曜日開催の講座を設けて、父親や働いている母親にも講座を受けてもらいやすいように計画を進める。					
成果	令和6年度			令和7年度					
	親子リトミック、サーキット運動を実施し、親子や親同士の交流の場とすることができた。 土曜日に開催することで父親や兄弟の参加があり交流の場とすることができた。			親子で参加型の体操、リトミック、サーキット運動等を実施し、親子のふれあいやスキンシップを図ることができた。					
課題	安全に配慮しながら、親子で一緒に体を動かすプログラムを中心に参加人数の増員、実施回数を増やしていく。			・参加人数の確保とプログラムの充実が課題である。 ・引き続き、受講者が参加しやすいような開催日程や親子で楽しめる運動の企画を検討する必要がある。					
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点					
・親子で遊んだり体操するなど、体を動かす活動につながるプログラムを実施することができた。 ・実施回数は目標値を下回ったがほぼ同数であり、参加人数は目標値を上回ったことから、概ね目標を達成できたと評価する。				引き続き安全に配慮しながら、父親・母親が参加しやすい開催時期・曜日を配慮し、創意工夫あるプログラムを実施する。					

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	16	取組名	地域子育て支援拠点事業				担当課		
							子育てサービス課		
概要	未就学児を対象に、親子が自由に遊び、交流できる場の提供、子育てに関する相談、情報及び学習の場の提供等を行い、安心して子育てができる環境を整備し、地域の子育て機能の充実を図る。また、習志野市こどもセンターでは、園庭を活用し、乳幼児を木々や土のある自然環境の中で自由に安心して遊ばせられる乳幼児専用プレーパークを開催する。								
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進	
	■施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5			□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します	
目標	施設内に親子が自由に遊び交流できる場を提供するとともに、毎日親子でのふれ合いと体を動かすことができる時間を設けます。習志野市こどもセンターでは、園庭を解放した際に、乳幼児を木々や土のある自然環境の中で自由に安心して遊ばせられる乳幼児専用プレーパークを開催します。また、乳幼児専用プレーパークイベントを年に数回開催します。								
評価指標		評価指標に対する実績値の判断			基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）		
乳幼児専用プレーパークのイベント開催回数		開催回数が維持していれば進捗している。			3回		3回		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			
目標値		3回	3回	3回	3回	3回			
実績値	0回	0回	0回	3回	3回	3回			
決算額（参考額）	23,730,495円	21,499,329円	15,629,576円	15,025,597円	14,840,553円	16,927,595円			
評価		C	C	A	A	A			
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満								
	令和2年度			令和3年度					
成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数制限、時間制限を行い、予約制による運営となった。各予約枠の中で手遊びや体操の時間を設けた。乳幼児専用プレーパークについては、園庭を解放した際に常時行い、イベントについては開催を中止した。			新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数制限、時間制限を行い、予約制による運営となった。各予約枠の中で手遊びや体操の時間を設けた。乳幼児専用プレーパークについては、園庭を解放した際に常時行い、イベントについては開催を中止した。					
課題	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた中での、運営方法、イベントの開催を検討する。			新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた中での、運営方法、イベントの開催を検討する。					
	令和4年度			令和5年度					
成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数制限、時間制限を行い、予約制による運営となった。各予約枠の中で手遊びや体操の時間を設けた。乳幼児専用プレーパークについては、園庭を解放した際に常時行い、イベントについては開催を中止した。			日常の園庭解放時に自然の素材などを使って親子が自由な発想で遊ぶ乳幼児専用プレーパークを開催し、季節に分けてイベントを3回実施した。イベントでは、木々やどんぐりなど自然の素材に加え、段ボールや牛乳パックなどの素材を置いたところ、親子が自分たちで考えて自由に遊んでいた様子があり、成果がみられた。					
課題	令和5年度は、3年ぶりのイベント開催を予定しているため、職員間で開催方法等を再確認をしながら、準備を進めていく。			親子が自分たちで考えて遊ぶことができる「環境と素材」の用意が重要であり、また、遊び方に戸惑っている親子に対して、職員からの声掛けによって考えて遊ぶことにつなげることが必要である。					
	令和6年度			令和7年度					
成果	日常の園庭解放時に自然の素材などを使って親子が自由な発想で遊ぶ乳幼児専用プレーパークを開催し、季節に分けてイベントを3回実施した。イベントでは、木々やどんぐりなど自然の素材に加え、段ボールや牛乳パックなどの素材を置いたところ、親子が自分たちで考えて自由に遊んでいた様子があり、成果がみられた。			日常の園庭解放時に自然の素材などを使って親子が自由な発想で遊ぶ乳幼児専用プレーパークを開催し、季節に分けてイベントを3回実施した。イベントでは、木々やどんぐりなど自然の素材に加え、段ボールや牛乳パックなどの素材を置いたところ、親子が自分たちで考えて自由に遊んでいた様子があり、成果がみられた。					
課題	親子が自分たちで考えて遊ぶことができる「環境と素材」の用意が重要であり、また、遊び方に戸惑っている親子に対して、職員からの声掛けによって考えて遊ぶことにつなげることが必要である。			親子が自分たちで考えて遊ぶことができる「環境と素材」の用意が重要であり、また、遊び方に戸惑っている親子に対して、職員からの声掛けによって考えて遊ぶことにつなげることが必要である。					
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点					
令和2年度から令和4年度にかけては新型コロナウイルス感染症の影響を受け、制限や規制を設けての親子交流となったが、終息後は目標値である年3回イベントを実施し、目標はおおむね達成した。				今後も親子が自由に遊べる環境づくりに励み、令和2年度から令和7年度にかけての実績と課題を参考に新たな発想や取組みを計画していく。					

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	17	取組名	市内障がい者スポーツ大会の開催				担当課	
							障がい福祉課	
概要	障がいのある人もない人も楽しめるイベントやレクリエーションの実施・情報提供します。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	□施策1 □施策2 ■施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを旨します
目標	習志野市障がい者スポーツ大会を開催し、障がいがある人もない人も楽しめるパラスポーツに触れる機会を作る。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）		
参加人数		人数が増えていれば進捗している。		54人		80人		
目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
		50人	50人	60人	70人	80人		
実績値	33人	—	33人	25人	36人	57人		
決算額（参考）	82,524円	0円	77,069円	70,585円	68,387円	30,456円		
評価		C	C	C	C	B		
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未滿							
成果	令和2年度			令和3年度				
	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から規模を縮小し、種目をポッチャのみとし開催した。参加者の募集人数を例年の80名から48名にした。感染症の影響もあり、参加者数が例年よりも少なかったが、参加者全員がパラスポーツを楽しむ機会を提供することができた。			9月末まで緊急事態宣言が発出されていたため、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から大会を中止した。（大会は例年10月下旬から11月に行っている。）				
課題	新しい生活様式を踏まえた効果的な大会の開催の検討。障がいのある人以外の参加を促す手法の検討。			新しい生活様式を踏まえた効果的な大会の開催の検討。障がいのある人以外の参加を促す手法の検討。				
成果	令和4年度			令和5年度				
	継続して新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、規模を縮小（競技を1種目とし、募集人数を削減）して開催した。参加者数は令和2年度と比較して横ばいとなった。			ユニバーサルスポーツ交流会として、競技種目ポッチャを行った。1チーム3名で9チーム構成であり、参加人数は前年度より減った。				
課題	今後、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が緩和された場合の開催規模の検討。障がいのある人以外の参加を促す手法検討。			障がいのある人以外の参加を多く促す手法として、広報誌やなるほど習志野（動画掲示板）等を利用して周知していく。				
成果	令和6年度			令和7年度				
	ユニバーサルスポーツ交流会として、ポッチャをメインの競技で、ラダーゲッターとディスゲッターをサブの競技で行った。参加人数は前年より11人増加し、幅広い年齢層の参加者が楽しんでいた。			ユニバーサルスポーツ交流会として、メインの種目はポッチャ、サブの種目はラダーゲッターとモルックを行った。昨年度の参加者が友人を誘って参加されるなど、参加人数は前年より10名増加した。また、視覚障害者福祉協会と共同で、サウンドテーブルテニス体験会を実施し、11名が参加した。				
課題	別の競技や運営方法等を模索し、より良いスポーツ交流会を実施したい。			ユニバーサルスポーツ交流会は、ここ3年間メインの種目がポッチャで続いているため、新たな種目での開催を目指す。				
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点				
基準値、目標値には達していないものの、コロナによる一度の中断がありながらここ2年間で参加人数は増加しており、一定の評価はできると考える。				令和8年度以降の参加人数の増加、パラスポーツに触れる機会の増加に向け、開催形式がマンネリ化しないよう、いろいろな種目でのスポーツ交流会の開催を目指す。また、気軽に参加できる小規模な体験会の開催についても検討する。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	18	取組名	寿学級の活動				担当課
							中央公民館
概要	健康に関する内容でスポーツ推進委員等の指導のもとで活動します。						
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③
	☐ 施策1 ☐ 施策2 ☒ 施策3 ☐ 施策4 ☐ 施策5		☐ 施策6 ☐ 施策7 ☐ 施策8		☐ 施策9 ☐ 施策10 ☐ 施策11 ☐ 施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をするをを目指します		施策目標値
目標	寿学級において、スポーツ推進委員等の指導のもとで健康に関するプログラムを実施する。						
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）	
①健康に関するプログラム回数 ②健康に関するプログラム参加人数		①回数が増えていけば進捗している ②人数が増えていけば進捗している		①47回 ②623人		①50回 ②650人	
目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
		①48回 ②630人	①48回 ②630人	①49回 ②640人	①49回 ②640人	①50回 ②650人	
実績値	回数 14回 人数 286人	①26回 ②402人	①69回 ②1,126人	①59回 ②1,497人	①37回 ②821人	①43回 ②1,038人	
決算額（参考）	25,000円	30,000円	293,000円	216,682円	130,000円	190,000円	
評価		C	A	A	B	B	
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満						
成果	令和2年度			令和3年度			
	健康づくりのための体操やグラウンドゴルフ、ラダーゲッターなどを実施した。参加者は楽しく体を動かすことができた。また、コロナ禍において、体を動かすきっかけにすることができた。			健康づくりのための体操やラダーゲッター、ダンスなど楽しく体を動かすことができた。また、パラリンピックで日本が活躍した、ポッチャの体験を行った。			
課題	コロナ禍で、学級全体として実施回数が減少した中で、体を動かす回も減少してしまった。次年度以降については、安全に配慮しつつ、実施回数を増やしていく。			感染拡大防止のため、学級の実施回数を半分としたが、対策を講じながら、体を動かす講座を実施した。高齢者の健康、体力維持のため、引き続き感染対策を行い、回数を増やしていく。			
成果	令和4年度			令和5年度			
	運動や健康をテーマに、体幹を整えるストレッチ、グラウンドゴルフ、ズンパダンス、歯科講座、公民館サークルの協力による盆踊り等、各館が工夫して取り組んだ。また、寿まつりの演目で「座タップダンス」や「健康リズム体操」を行い、参加者も楽しく体を動かし活動することができた。			新型コロナウイルス感染症により事業の縮小を余儀なくされていたが、当該感染症が第5類に移行したことに伴い、各種事業における規制が緩和され、学級生間の交流が徐々に活性化してきている。モルック・ポッチャなどのニュースポーツや、グラウンドゴルフ、ズンパダンス等、運動や健康をテーマとした講座を、各館で創意工夫し実施することができた。寿まつりは、令和4年度と同様に二部制として開催し、演目でハンドメイドダンスやエイサー、リズム体操等を行い、参加者も楽しく体を動かし活動することができた。			
課題	コロナ禍による外出控えで参加者が減少した。高齢者の健康、体力維持のため、引き続き感染防止対策を行いながら、内容の充実を図ることで参加人数の増員につなげたい。			寿学級全体として、高齢化が見られ、猛暑や体調不良等による欠席者の増加が見受けられた。次年度以降は、暑い時期は夏休みにするなど、参加者の体調や体力等を十分考慮し、活動内容の検討を進める必要がある。			
成果	令和6年度			令和7年度			
	高齢者でもできる無理のない運動に取り組んだ。また、ニュースポーツ（ポッチャ、モルック、ベタンク）に取り組み、学びの機会となった。運動の指導に当たっては、市スポーツ指導員や健康づくり推進員を招聘した。			市民スポーツ指導員などによる指導の下、受講生はモルック、グラウンドゴルフ、eスポーツ、ストレッチ体操など体を動かし健康づくりへの意識を高めるとともに、フレイル予防にもつながった。			
課題	参加者の高齢化が進むなか、安全面や健康面に配慮しながら無理なくできる活動内容を検討する必要がある。			体力・健康状態に個人差があるため、無理のない運動プログラムや継続的な運動習慣につなげるための工夫が必要である。			
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点			
・運動プログラムを計画的に取り入れることで、高齢者の健康づくり及び仲間づくりに寄与することができた。 ・実施回数は目標値を下回ったが、1回あたりの平均参加人数（15人から24人に増）及び参加者総数（約1.6倍に増）から、概ね目標を達成できたと評価する。				引き続き受講生の体調や安全に配慮し、継続的な運動習慣の定着を促進できるような内容の充実を図る。			

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	19	取組名	あじさいクラブ連合会（老人クラブ）主催 各種スポーツ大会への支援				担当課 高齢者支援課	
概要	あじさいクラブ連合会会員を対象にしたグラウンドゴルフ、パークゴルフ、ベタンク、ゲートボールの各種大会を支援します。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	□施策1 □施策2 ■施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを旨します
目標	あじさいクラブ連合会に加入している各単位老人クラブに対して大会への参加を積極的に働きかけ、参加人数の増加を図ります。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）		
参加人数		参加人数が増えれば進捗している		396人		430人		
目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
		400人	405人	410人	420人	430人		
実績値	0人	45人	277人	158人	199人	176人		
決算額（参考）	—	129,918円	350,416円	244,181円	321,590円	240,391円		
評価		C	C	C	B	C		
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満							
令和2年度		令和3年度						
成果	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全ての大会が中止となり、実績はなかった。			令和3年度については新型コロナウイルス感染拡大防止に加え、雨天の影響もあり、参加者数を制限したパークゴルフ大会のみの開催となった。				
課題	高齢者が対象となる取り組みであり、新型コロナウイルスの状況により大会開催が可能かどうか検討する必要がある。			次年度については新型コロナウイルスの状況にもよるが、基本的な感染防止対策を講じたうえで大会を開催する。				
令和4年度		令和5年度						
成果	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じ、グラウンドゴルフ、パークゴルフ、ベタンクの各大会が開催された。ゲートボールについては参加者が集まらないため、中止となった。			令和5年度は当初計画通りの実施となったが、人気のあるパークゴルフは雨天中止、ゲートボールについては参加者が集まらないため中止となり、グラウンドゴルフ、ベタンクのみの開催となった。				
課題	今後も基本的な感染防止対策を図り、各大会を開催する。会員の高齢化に伴い会員数も減少し続けている中で、一層の周知を図る必要がある。			引き続き各大会を実施するが、会員の高齢化から、老人クラブ数、会員数の減少が進んでいる。現会員も大会へ参加することが負担となっていることもあり、新規会員を増やし、大会の一層の周知を図る必要がある。				
令和6年度		令和7年度						
成果	ゲートボールは参加者が集まらずに中止となったが、グラウンドゴルフ、パークゴルフ、ベタンク大会は予定通り開催した。また、概要にある大会以外に、市内老人クラブを4地区に分けて、それぞれの地区で高齢者が屋内で気軽に楽しむことができるソフトボウリング等の競技を4回開催した。			グラウンドゴルフ、パークゴルフ、ベタンク大会は予定通り開催した。また、昨年に引き続き、市内老人クラブを4地区に分けて、それぞれの地区で高齢者が屋内で気軽に楽しむことができるモルック等の競技を4回開催した。				
課題	会員の高齢化により会員数が減少するなか、大会の会場への足の問題があり、参加者が集まりづらい。大会以外に近くの会場に足を運んでもらい、気軽に楽しめるものを検討する。			会員の高齢化により会員数が減少するなか、新規会員を増やし、大会の一層の周知を図る必要がある。大会の会場への足の問題もある。				
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点				
グラウンドゴルフ、パークゴルフ、ベタンク大会は予定通り開催し、市内老人クラブを4地区に分けて、それぞれの地区で高齢者が屋内で気軽に楽しむことができるモルック等の競技も開催できた。参加者数の増加については、一層の大会の周知と実施方法の検討等を図る必要がある。				会員の高齢化や社会情勢の変化による会員数の減少に伴い、参加者数も減少している。大会会場への足の問題もあることから、大会場所や開催方法等の検討が必要である。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	20	取組名	高齢者スポーツ大会の開催				担当課
							高齢者支援課
概要	60歳以上の高齢者を対象に体力づくり健康づくりの他、高齢者の親睦を深めるため高齢者向けの競技を実施します。						
該当施策	柱①	するスポーツの推進	柱②	みるスポーツの推進	柱③	支えるスポーツの推進	
	☐ 施策1 ☐ 施策2 ☒ 施策3 ☐ 施策4 ☐ 施策5		☐ 施策6 ☐ 施策7 ☐ 施策8		☐ 施策9 ☐ 施策10 ☐ 施策11 ☐ 施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します	施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指す	施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指す	
目標	高齢者の健康づくり、また親睦を深めることに寄与するべく、大会への参加を広く呼びかけ、参加人数の増加を図ります。						
	評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）
	参加人数		参加者数が増加していることが進捗している		368人		410人
目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
		378人	388人	389人	400人	410人	
実績値	—	—	293人	236人	229人	205人	
決算額（参考）	0円	0円	564,701円	676,300円	586,555円	575,381円	
評価		C	C	C	B	B	
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満						
成果	令和2年度			令和3年度			
	高齢者スポーツ大会は毎年10月に開催しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため大会が中止となり、実績はなかった。			高齢者スポーツ大会は毎年10月に開催しているが、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため大会が中止となり、実績はなかった。			
課題	高齢者が対象の取り組みであり、新型コロナウイルスの拡大状況により大会を開催できるか検討する必要がある。また、毎年参加者の大部分は老人クラブ所属者であり、一般の参加が少ない。一般参加者の増加方法を検討する必要がある。			令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため大会は中止となった。次年度については新型コロナウイルスの状況にもよるが、基本的な感染防止対策を講じたうえで大会を開催したい。			
成果	令和4年度			令和5年度			
	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じ、令和元年度以来、3年ぶりのスポーツ大会開催となった。			令和5年度は特に制限を設けずに開催し、各クラブの参加者は他クラブの会員との交流を図ることができ、日頃行うことのない各種競技を楽しんでいた。			
課題	今後も基本的な感染症対策を講じ、スポーツ大会を開催する予定であるが、会員の高齢化に伴う会員数が減少し続けており、一層の周知を図る必要がある。			各種スポーツ大会と同様、会員の高齢化により会員数が減少し続けており、参加者数も減少している。クラブ数、会員数の増加が必要である。			
成果	令和6年度			令和7年度			
	老人クラブ会員同士の交流の場ともなっている大会であり、交流を図るいい機会である。参加者はパン食い競争、玉入れなどの競技を楽しんでいる様子であった。			各クラブの参加者は他クラブの会員との交流を図ることができ、パン食い競争など各種競技を楽しんでいた。			
課題	会員の高齢化により会員数が減少するに伴い、参加者数も減少している。会場への足も減少の理由と思われる、今後の課題である。			会員の高齢化により会員数が減少するに伴い、参加者数も減少している。一層の周知を図る必要がある。			
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点			
各クラブの参加者は、他クラブの会員との交流を図ることができ、各種競技を楽しんでいた。高齢者の健康づくりや親睦を深めるという大会の目的は達成できたと考えられるが、参加者数の増加という点では、今後の課題である。				参加者数の減少には、会員の高齢化とともに、就業年齢の高齢化や多様化する社会情勢の変化による会員数の減少が伴っている。			

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	21	取組名	一般介護予防事業				担当課	
							健康支援課	
概要	65歳以上の高齢者を対象に、要介護状態にならずにいつまでも自立した生活が送れるよう、運動等の支援をする。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	□施策1 □施策2 ■施策3 □施策4 □施策5			□施策6 □施策7 □施策8			□施策9 □施策10 □施策11 □施策12	
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します
目標	運動器の機能向上を目的とした『足腰げんき塾』、認知症予防を目的とした『脳の活性化プログラム』の参加により、より多くの市民が介護予防に取り組むきっかけづくりを支援します。（基準値①・目標値は「習志野市光輝く高齢者未来計画2021」に基づく）							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断			基準値		最終目標値（令和7年度）	
①介護予防教室参加者の合計数 ②参加者のうち生活機能が維持・向上している人の割合（％）		①人数が増えていれば進捗している ②80％以上を維持することが進捗している			①150人 ②61.9％		①150人 ②80％	
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
目標値		①150人 ②80％	①150人 ②80％	①150人 ②80％	①150人 ②80％	①150人 ②80％		
実績値	①170人 ②61.9％	①213人 ②56.3％	①234人 ②69.3％	①318人 ②72.4％	①362人 ②65.9％	①424人 ②83.9％		
決算（参考額）	2,147,030円	3,188,350円	3,479,190	3,679,995	3,961,320	4,436,520		
評価		B	B	B	B	A		
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未達							
成果	令和2年度			令和3年度				
	運動器の機能向上教室（足腰げんき塾）と認知症予防教室（脳の活性化プログラム）共に、緊急事態宣言発令を受けて9月からの開催となった。令和元年度の半分以下の定員数にて実施したが、定員を超える申込みがあった。参加者に実施したアンケートからは、生活機能を維持・向上している人は両教室ともに半数を超えていた。			新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、定員の削減、時間を短縮するなどして、可能な範囲で教室開催することができた。感染拡大にて申込者が定員に満たない会場もあったが、参加者人数は目標に達した。参加者の生活機能の維持・向上は半数は超えたが目標には達しなかった。				
課題	定員数を減らしての開催のため参加者数としては減少するが、より多くの市民が参加できるよう新規申込者を優先し参加を促していく必要がある。また、教室参加後も継続して運動や認知症予防を行っているような教室内容を検討していく必要がある。			感染対策により、人数や時間の制限がある中で、効果的な教室の開催を行っていく必要がある。教室終了後、自宅や地域で参加者が介護予防に継続して取り組める仕組みを検討していく。				
成果	令和4年度			令和5年度				
	生活機能が維持向上している参加者は、足腰げんき塾が68.1％、脳の活性化プログラムが70.4％で合わせた平均値は69.25％となった。目標値は未達成だが、年々増加傾向（+7.4％）にある。さらにアンケートで実施している主観的健康観の「非常に健康」「まあ健康」について、足腰げんき塾123人（87.2％）脳の活性化プログラム46人（80.7％）であり、健康であると感じている参加者は多いと考える。			生活機能が維持向上している参加者は、足腰げんき塾が73.9％、足腰げんき塾立位コースが87.1％、脳の活性化プログラムが55.8％で全体では72.4％となった。新規事業「足腰げんき塾立位コース」の平均年齢は73歳で前期高齢者となり、運動機能別の介護予防教室目的に合致した。グループワークや栄養・口腔ケア講座により教室終了後も健康講座や「通いの場」へつながった。				
課題	参加者の運動機能が多様でありプログラムの組み立てが困難であった。そのため次年度は「足腰げんき塾立位運動コース」を新設し対応する。また教室終了後も行動変容を継続させるため、グループワークや栄養・口腔ケア講座を導入することとした。			生活機能が維持・向上している割合は足腰げんき塾立位コースでは目標値を達成した。アンケート回答時の本人の健康状態により結果が左右されたことや教室参加前に比べ「物忘れ」などへの健康意識が高まったことで、参加前より自分が健康だと思う割合が減ったためと考える。教室終了時に健康度が上がるカリキュラム内容の検討と多様な運動・認知機能への対応が課題である。				
成果	令和6年度			令和7年度				
	アンケートにより生活機能が維持向上した人の割合は減少したが、教室参加前後の体力測定結果は改善していた。教室終了時には参加者の健康意識が高まり自己評価が厳しくなっていると考えられる。介護予防教室参加希望者が増加している			『脳の活性化プログラム』のコースを増加したことにより、参加者は増加した。生活機能が維持向上したと回答した人の割合は初めて80％を超えることができた。				
課題	当選倍率が3倍を超えた「脳の活性化プログラム」について、次年度はコースを増加する。さらに、アプリケーションを用いた姿勢分析を導入し、未参加層の関心を促し運動づくりのきっかけを促す。			参加希望者の中には、リピーターが多い。これまで教室に参加したことのない人に対するアプローチ方法を検討する必要がある。				
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点				
令和7年度には、目標値を達成することができた。より多くの市民が介護予防に取り組むきっかけづくりを支援するという目標は概ね達成したと考えられる。				どの教室に関しても、リピーターが多い現状がある。教室に参加した人が継続的に介護予防に取り組んでいけるように、高齢者相談センター等と連携をはかっていく必要がある。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	22	取組名	てんとうむし体操の推進				担当課	
							高齢者支援課	
概要	寝たきりの主な原因のひとつである転倒・骨折を予防するための体操として、習志野市オリジナルの体操である「てんとうむし（転倒無視）体操」を普及する。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	□施策1 □施策2 ■施策3 □施策4 □施策5			□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します
目標	てんとうむし体操に取り組む市民が増えることを目指す。てんとうむし体操に取り組む転倒予防体操推進団体が増え、団体に参加する市民が増えるよう取り組んでいく。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）		
①転倒予防体操推進団体数 ②団体への参加人数（延べ人数）		①増加していれば進捗 ②増加していれば進捗		①59か所 ②30,601人		①60か所 ②35,000人		
	令和2年度	令和3年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
目標値		①56か所 ②15,000人		①57か所 ②30,000人	①58か所 ②31,000人	①59か所 ②33,000人	①60か所 ②35,000人	
実績値	①56か所 ②11,612人	①57か所 ②16,001人		①55か所 ②19,585人	①56か所 ②24,501人	①59か所 ②27,436人	①55か所 ②26,935人	
決算額（参考額）	515,000円	578,005円		646,798円	776,635円	868,413円	1,021,305円	
評価		C		C	C	B	C	
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満							
成果	令和2年度				令和3年度			
	①②は平成30年度までは年々増加していたが、感染症の影響から令和元年度より、活動自粛及び休止による影響で参加者減少。その後も活動の実施については慎重ではあるが、高齢者の健康維持のための活動は一斉に自粛するものではなく、感染予防対策の実施とワクチン接種の進行に伴い活動再開の動きがある。				新規団体が1団体増。感染症予防のための消毒や換気が定着し、ワクチン接種を積極的に行った上で活動を実施している。そのため参加者の増加が見られた。感染状況に合わせ、参加者と相談しながら活動自粛及び再開を決定している様子が伺える。			
課題	施設使用人数の制限が従来より少人数になり団体毎に参加人数を増やすことよりも、少人数による身近な場所で参加できる場所を増やしたい。				コロナ禍以降、活動自粛していた団体の中で団体登録取消となった団体がある。継続団体には引き続き活動支援を実施し、新たな団体の立ち上げに向けて、転倒予防体操推進員の活動支援、地域運動習慣自主化事業を通して実施していく。			
	令和4年度				令和5年度			
成果	新規団体数は3団体増加した。高齢者施設内での開催が困難で再開できないなど、休止や廃止となった団体が6団体あった。感染症予防策を講じた上での活動は定着しつつあり、全体の参加人数は増加している。				新規団体数は1団体増加した。活動頻度をコロナ禍前と同様に戻す団体が増えたことから、延べ参加人数は増加傾向である。			
課題	継続団体には引き続き活動支援を実施する。転倒予防体操推進員の活動支援や地域運動習慣自主化事業を通し、新たな団体の立ち上げを支援していく。				未だ体操などの集まりに参加することへ抵抗のある高齢者が多く、以前のような状態に完全に戻るのには難しいという現場の声が多く聞かれている。体操に取り組む市民が増えるよう普及啓発活動に力を入れ、広く参加者を募る必要がある。			
	令和6年度				令和7年度			
成果	新規団体は1団体増加した。延人数は増加しており、地域住民で活動が継続され通いの場となっている。				新規団体数は1団体、活動終了となった団体が5団体あった。延べ参加人数は昨年度と比較して微減しているが、2年前より増加している。			
課題	高齢化を理由に登録取消となった団体もあり、引き続き継続団体の活動支援と、新規団体の立ち上げに向けて支援を行う。高齢化により移動が困難であるとの声が多く聞かれるため、生活圏内で参加できる場所を増やしていく必要がある。				推進員引退後の後継者不在や高齢化を理由に登録取り消しとなった団体もあり、引き続き新規推進員の育成、継続団体の活動支援、新規団体の立ち上げに向けて支援を行う。			
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点				
コロナ禍にて活動内容の変更を迫られる時期もあったが、転倒予防体操推進員を中心に活動を継続した。また、活動団体数の大幅な増加はないが団体への参加人数は増加傾向にあり、てんとうむし体操を実施する市民は増えていると考えられる。				引き続き新規推進員の育成や継続団体の活動支援、新規団体の立ち上げに向けての支援を行い生活圏内で参加できる場所を増やしていく。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	23	取組名	ニュースポーツ用具の貸出				担当課		
							生涯スポーツ課		
概要	ニュースポーツ用具を団体や市民へ貸し出し、ニュースポーツの普及を推進する。								
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進	
	□施策1 □施策2 □施策3 ■施策4 □施策5		□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12				
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します	
目標	ニュースポーツの周知・普及を通じて、市民が気軽にスポーツ・運動に取り組む機会の充実を図ります。								
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）			
ニュースポーツ用具の貸し出し回数		回数が増えていけば進捗している		60回		85回			
目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			
		45回	55回	65回	75回	85回			
実績値	38回	59回	109回	146回	171回	188回			
決算（参考額）	108,085円	50,270円	0円	142,120円	0円	53,998円			
評価		C	A	A	A	A			
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満								
成果	令和2年度			令和3年度					
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市内のイベントやスポーツ教室等が中止になったことから、貸し出し回数は基準値を大幅に下回った。また、破損したキンボールのインナーボール等を購入し、次年度の用具貸出に備えた。			パラリンピック後に、公民館や放課後デイサービス、社会福祉施設への「ポッチャ」の貸出が昨年の倍になった。他の用具の貸出も増えた。					
課題	コロナ禍においても、感染対策を講じながらイベント等でニュースポーツに取り組めるよう、引き続きニュースポーツ用具の貸し出しについて周知を行う必要がある。また、返却時に用具の破損が2回確認されており、市の負担となったことから、貸出前後の利用者との状態確認を徹底する。			トラブルの原因とならないよう、引き続き、貸出前後の用具の状態確認を徹底する。					
成果	令和4年度			令和5年度					
	各地域でスポーツ活動が再開していく中で、用具の貸し出しも大幅に増加した。中でも手軽にできる割にゲーム性の高いモルック、ポッチャの人气が高かった。			新型コロナウイルス5類移行に伴い、各地区でのスポーツ活動が活発になり、用具の貸し出しも大幅に増加した。複数種目を借りていく方も多く見れた。					
課題	個人でも扱えるノルディックポールは貸し出しが少なくまだ新しいまま保管されている。貸し出しできる用具についての周知の力を入れていく必要がある。			用具破損の報告がなく、弁償してもらえない用具があった。報告を促すため、台帳等で管理を徹底する必要がある。					
成果	令和6年度			令和7年度					
	各地区でのスポーツ活動が活発で、目標値を大きく上回った。特に秋（10～12月）の貸し出し数が最も多く、特にポッチャやモルック、輪投げの貸し出しが増えた。			引き続き各地区でのスポーツ活動が活発で、目標値を大きく上回った。1年を通して貸出回数は多いが、特に秋（10～12月）の貸し出し数が多かった。また、内容としてはポッチャやモルック、輪投げの貸し出しが多かったほか、フラッグフットボールの貸し出しも見られたことから、前年度以上の数値となった。					
課題	ポッチャやモルック等の人気用具に比べ、フラッグフットボールやティーボールの貸し出し数がゼロであった。多くの用具の貸し出しが可能であることを周知させつつ、様々なニュースポーツに触れてもらう機会を増やして行く必要がある。			前年度より貸し出し回数が増えているものの、依然としてフラッグフットボールの貸し出し回数がポッチャやモルックと比較して少ない状況が続いている。様々な用具の貸し出しが可能であることを周知しつつ、市民がニュースポーツに触れる機会を増やす必要がある。					
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点					
新型コロナウイルスの影響が残るなか、目標値を大きく上回る結果となった。中でも、ポッチャ・モルック・輪投げの貸し出し回数が大きく増加しており、市民スポーツ指導員が中心となる、地区活動の影響が大きいと史料する。				今回は、目標値を大きく上回ることができたため、今後もこの現状以上の数値となるように努める。しかしながら、貸し出し用具の内容に偏りがある状況のため、貸し出し回数の少ない競技について、地区活動の場などで周知してもらう機会を設ける必要がある。					

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	24	取組名	市民スポーツ指導員養成講座の実施				担当課	
							生涯スポーツ課	
概要	市民スポーツ指導員の委嘱期間に合わせて3年ごとに養成講座を開催し、新たな指導員を養成します。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	□施策1 □施策2 □施策3 ■施策4 □施策5			□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 ■施策10 □施策11 □施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します
目標	任期の更新に合わせ、3年に一度市民スポーツ指導員養成講座を開催し、新たな指導員を養成することで地域のスポーツ活動の担い手となるボランティアを育成します。養成講座の講義内容にニューススポーツを取り入れることで、ニューススポーツの普及を図り、市民が気軽にスポーツ・運動に取り組む機会の充実を図ります。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）		
養成講座受講者		人数を維持していれば進捗している		26人		26人		
目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
		—	26人	—	—	26人		
実績値	—	—	37人	—	—	31人		
決算額（参考額）	—	—	640,247円	—	—	138,776円		
評価		C	A	C	C	A		
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満							
成果	令和2年度			令和3年度				
	令和2年度実施なし。 令和元年度の養成講座により、新たに26人が指導員として活動を開始した。			令和3年度実施なし。 令和4年度の実施に向けて、従来から実施している「市内各施設・庁内のポスター掲示、HP、広報紙、Twitter」に加え、街角にある「広報揭示版へのポスター掲示、商工会議所広報紙へのチラシ折込、ならしの朝日・船橋よみうりへの掲載、市政広報用テレビモニターなど範囲を拡大して受講生募集を行った。				
課題	—			広報習志野4月1日号に掲載し、4月22日を募集締め切りとしたが、期限が短いとの意見があった。次回開催時は3月15日号への掲載を検討する。20代～40代に知っていただけるよう市内大学へのチラシ配付や市内各駅へのポスター設置等の新たな周知方法の検討も必要。				
成果	令和4年度			令和5年度				
	参加申込：38名、修了者37名 1名が途中辞退となったが、前回人数を上回る人数で修了することができた。20代～70代の受講生37名は、現役指導員による市民スポーツ指導員の歴史やニューススポーツを中心とした実技の他、外部講師によるノルディックウォークや体幹トレーニング等を学んだ。			令和5年度実施なし。 令和4年度の養成講座により、新たに37人が指導員として活動を開始した。				
課題	受講者数（修了者数）増に向けて指導員自体の認知度を高めるための情報発信方法の検討はもちろん、途中辞退者が出ないよう講座内容の充実を検討する必要がある。具体的には現役指導員やスポ推が複数名で各グループの講師となるカリキュラムは、担当講師によって競技ルールなど教える内容が異なるよう事前の確認が必要である。			令和6年度開催に向け、3月15日号広報への掲載準備をする。 また、20代～40代を対象に市内大学や市内各駅へのポスター設置、SNSを活用した新たな周知方法を検討する。				
成果	令和6年度			令和7年度				
	令和6年度実施なし。 令和7年度の市民スポーツ指導員養成講座の実施に向け、ホームページ、X（旧Twitter）への掲載、チラシを全17か所510部配布し受講生募集を行った。			参加申込：33名、修了者31名 2名が途中辞退となったが、目標人数を上回る人数が修了することができた。20代～70代の受講生31名は、現役指導員による市民スポーツ指導員の歴史等の講義やニューススポーツを中心とした実技形式で学んだほか、外部講師によるノルディックウォークや熱中症対策、緊急時の対処法を学んだ。				
課題	講座内容の充実を図り、参加者が講座受講後すぐに市民スポーツ指導員として各地区で活動できるよう検討する。			新規指導員となる対象者向けの養成講座ではあるが、今後ともに活動していくことを踏まえ、現役の指導員と交流する場を引き続き作るとともに、市民スポーツ指導員の活動内容について周知方法を検討し、より多くの修了生を目指す。				
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点				
令和7年度は4年度よりも人数が減少したものの、目標人数を上回ることができた。				目標値を上回る人数が修了したが、長期的な活動継続のためには、より若い世代の市民スポーツ指導員参加が必要であると思われる。 市民スポーツ指導員をはじめとする地区ごとの活動の周知方法や、次の養成講座の内容について、ニーズに合わせて検討する。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	25	取組名	体力・運動能力測定事業の実施				担当課
							生涯スポーツ課
概要	5年に一度実施する成人と高齢者を対象とした体力・運動能力調査を実施します。						
該当施策	柱①	するスポーツの推進	柱②	みるスポーツの推進	柱③	支えるスポーツの推進	
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 ■施策5		□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します	施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを 目指します	施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを 目指します	
目標	多くの市民に体力測定に参加していただくことで、自身の体力の現状や、日頃のスポーツや運動の成果等を知っていただき、より効果的な運動実施を図ります。（県の調査に合わせて実施し、次回実施は令和7年度予定）						
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）	
参加者数		人数が増えていれば進捗している		97人		140人	
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
目標値		—	—	—	—	140人	
実績値	—	—	—	—	—	89人	
決算額（参考）	—	—	—	—	—	—	
評価		C	C	C	C	B	
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未達						
	令和2年度			令和3年度			
成果	—			—			
課題	—			—			
	令和4年度			令和5年度			
成果	—			令和6年度実施に向け、体力・運動能力の調査依頼元である千葉県の担当課へ確認したところ、新型コロナウイルス感染症の影響により実施依頼対象年度が令和7年度へ延期となったとの報告を受けた。			
課題	—			令和7年度実施に向け、調査協力を依頼している習志野市市民スポーツ指導員へ協力依頼を行う。			
	令和6年度			令和7年度			
成果	令和7年度の開催に向け、習志野市市民スポーツ指導員へ協力依頼を行うとともに、千葉県担当課及び関係各課に必要な備品の調達等を行い、円滑に体力・運動能力測定事業を実施できるように準備を進めた。			千葉県からの実施要請により、市民スポーツ指導員自主研修会の形で体力・運動能力測定を実施した。参加人数は目標値には届かなかったが、事前の細やかな準備により、当日は円滑に業務を行うことができた。			
課題	当日の参加人数が未定のため、体力・運動能力測定の前の血圧の測定等健康チェックが必要になるため、円滑な運営を行えるようタイムスケジュールを詳細に作成する必要がある。			次回実施においても円滑に対応できるように事前準備を進める必要がある。			
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点			
計画通りに市民スポーツ指導員の自主研修会に位置づける形で、令和7年度に体力・運動能力測定を実施することができた。				現状は市民スポーツ指導員の研修会に位置付けて実施しており、参加者は市民スポーツ指導員のみとなっている。本調査の目的を踏まえ、次回調査の実施方法や参加者を増やす取り組みについて検討していく。			

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	26	取組名	健康づくり推進協議会主催「習志野発見ウォーク」の開催				担当課	
							健康支援課	
概要	ウォーキングマップの作成やウォーキングイベントの開催などを通じて、市民の健康づくりをサポートする。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	□施策1 □施策2 □施策3 ■施策4 ■施策5			□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します
目標	ウォーキングマップの活用や習志野発見ウォークへの参加を通じて市民が健康づくりに取り組むことができる。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断			基準値		最終目標値（令和7年度）	
①マップの作成数 ②発見ウォークの開催回数		マップの作成数又は発見ウォークの開催回数が維持することが進捗している			新規事業		①4回 ②3回	
	令和2年度	令和3年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
目標値		①4回 ②3回		①4回 ②3回	①4回 ②3回	①4回 ②3回	①4回 ②3回	
実績値	①1回 ②0回	①3回 ②0回		①1回 ②1回	①0回 ②0回	①0回 ②0回	①0回 ②0回	
決算（参考額）	4,998円	34,161円		14,881円	0円	0円	0円	
評価		B		C	C	C	C	
《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満								
	令和2年度				令和3年度			
成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、習志野発見ウォークは中止となった。習志野発見ウォークのコースのマップを作成し、広報やHP等で周知、市庁舎やヘルスステーション等の窓口で配布し、市民が個人で健康づくりができるよう努めた。				新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、習志野発見ウォークは令和2年度に引き続き中止となったが、習志野発見ウォークのマップを3コース作成し、広報やHP等で周知、市庁舎やヘルスステーション等の窓口で配布した。ウォーキングマップは好評のため増刷しており、市民の健康づくりに活用されている。			
課題	新しい生活様式に合わせた習志野発見ウォークの開催方法について検討が必要。				新しい生活様式に合わせた習志野発見ウォークの開催方法について検討が必要。			
	令和4年度				令和5年度			
成果	習志野発見ウォークの開催に向けて試し歩きを実施すると共に、ウォーキングマップを作成した。習志野市健康づくり推進員が作成したウォーキングマップを使用した習志野発見ウォークを開催することができた。				令和4年度の課題を受け、ウォーキングは実施せずに公民館でフレイル予防についての啓発活動を行った。			
課題	ウォーキングの参加者に体力低下がみられた。コースにより参加者が限られることから、ウォーキングに参加できない市民が身近な場所で参加できるフレイル予防の取り組みが必要である。				フレイル予防に着目した健康づくりを推進するため、令和5年度はウォーキングイベントを実施しなかった。今後実施についての検討必要。			
	令和6年度				令和7年度			
成果	健康づくり推進協議会は令和6年7月22日に廃止し、ウォーキングは実施しなかった。健康づくり推進員は、新たな活動として公民館の寿学級で、市民が個人で健康づくりに取り組めるようなフレイル予防講座を行った。ウォーキングマップは、ホームページや活動で周知を図った。				令和6年度同様にウォーキングイベントは開催しなかった。健康づくり推進員は、公民館でのフレイル予防講座以外に本庁舎において健康に関する測定会を新たに実施。			
課題	今後も市民が自主的に健康づくりに取り組めるよう、啓発活動を行うことが課題である。				今後も市民が自主的に健康づくりに取り組めるよう、啓発活動を行うことが課題である。			
施策目標値に対する総合評価					次期計画に向けての改善点・留意点			
習志野発見ウォークは令和5年度より実施しておらず、ウォーキングマップを周知することに留まっている。					現在の健康づくり推進員はウォーキングとは異なる方面から健康づくりに対するアプローチを実施している。今後は年代に応じた身体活動を啓発し、健康増進につなげていく。			

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	27	取組名	健康なまち習志野推進月間の実施				担当課	
							健康支援課	
概要	市民1人ひとりが健康に対する意識を高め、健康的な生活を自ら選択し、主体的に取り組むことを目指して、毎年11月を健康なまち習志野推進月間と定め、健康フェアの開催や啓発活動を実施する。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 ■施策5		□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを 目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します
目標	市HPや広報、チラシを活用した情報発信により、健康フェアの開催を幅広く周知し、来場者数の増加を図る。 健康づくりをサポートする様々なイベントを通じて、健康に対する意識を高める。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断			基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）	
健康フェア来場者数		人数が増えていけば進捗している			2,050人		2,075人	
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
目標値		2,055人	2,060人	2,065人	2,070人	2,075人		
実績値	—	—	—	1,703人	—	2,160人		
決（参考）算（額）	—	—	—	207千円	18千円	179千円		
評価		C	C	B	C	A		
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満							
	令和2年度			令和3年度				
成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。			新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。				
課題	次年度以降については、新しい生活様式に合わせた内容での実施を検討していく必要がある。			令和4年度については、新しい生活様式に合わせた内容での実施を検討していく必要がある。				
	令和4年度			令和5年度				
成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。 市庁舎1階展示スペースで、成人高齢者保健係が生活習慣病予防等への啓発を目的にパネル展示を行った。			新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、10月29日（日）庁舎1階にて開催。 医師等による医療相談や歯科健診などを行った。				
課題	健康なまち習志野推進月間にあわせて開催している「健康フェア」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年度から4年度まで中止となった。この間の担当者の入れ替わりにより、本イベントの経験者が少ない。			健康なまち習志野推進月間にあわせて開催している「健康フェア」は、令和元年度依頼5年ぶりに開催となった。福祉ふれあいまつりとの同時開催により参加者の増加は見込めている。来場者からの意見等を踏まえ、フェアの内容を発展させていくよう各団体と協議していく必要がある。				
	令和6年度			令和7年度				
成果	10月27日（日）に開催に向けて各団体との打ち合わせ、準備等をおこなっていたが、市庁舎が衆議院解散による選挙の期日前投票の会場となったことから場所の確保ができないことから中止となった。			10月26日（日）庁舎1階で、福祉ふれあいまつりとの同時開催にて実施し、三師会による相談コーナー、母子保健推進の会によるフォトコーナー、健康づくり推進の会による握力測定などを行った。 親子連れ、障がいをお持ちの方や福祉ふれあいまつりのステージ参加者も来場し、コロナ前である令和元年度と同等の来場者数となり、最終目標値を達成することができた。				
課題	健康なまち習志野推進月間にあわせて開催している「健康フェア」は、福祉ふれあいまつりとの同時開催により参加者の増加を見込んでいる。来場者からの意見等を踏まえ、フェアの内容を発展させていくよう各団体と協議していく必要がある。			健康なまち習志野推進月間にあわせて開催している「健康フェア」は、福祉ふれあいまつりとの同時開催により参加者の増加を見込んでいる。同時開催による参加者増の効果をより高めるため、当日の掲示物や事前のチラシ等、周知の仕方を検討する必要がある。				
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点				
本計画期間では、コロナ禍の影響があり、実施できない年度が多かったが、最終年度である令和7年度に目標を達成することができた。 福祉ふれあいまつりとの同時開催による効果が大きかったと考えられる。				福祉ふれあいまつりとの同時開催にあたり、より効果を上げるため、連携を深めていくことや、催し内容がマンネリ化しないよう、参加者の興味を惹きつける取り組みについて、各団体と協議していく必要がある。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	28	取組名	健康に関する講座				担当課
							中央公民館
概要	成人対象の健康に関する講座や地区学習圏会議主催による講座等を実施する。						
該当施策	柱①	するスポーツの推進	柱②	みるスポーツの推進	柱③	支えるスポーツの推進	
	☐ 施策1 ☐ 施策2 ☐ 施策3 ☐ 施策4 ☒ 施策5		☐ 施策6 ☐ 施策7 ☐ 施策8		☐ 施策9 ☐ 施策10 ☐ 施策11 ☐ 施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します	施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します	施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを旨します	
目標	成人を対象として公民館や地区学習圏会議主催による健康に関するプログラムを実施する。						
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）	
①健康に関するプログラム回数 ②健康に関するプログラム参加人数		①回数が増えていれば進捗している ②人数が増えていれば進捗している		①34回 ②687人		①36回 ②720人	
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
目標値		①35回 ②700人	①35回 ②700人	①35回 ②700人	①36回 ②720人	①36回 ②720人	
実績値	①15回 ②266人	①28回 ②430人	①34回 ②553人	①35回 ②573人	①20回 ②552人	①28回 ②557人	
決算額（参考）	80,000円	241,000円	326,000円	315,000円	330,200円	265,400円	
評価		C	B	B	B	B	
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満						
	令和2年度			令和3年度			
成果	健康のための体操や散策などを実施した。参加者は、楽しく運動を行うことができた。			健康のための体操やノルディックウォーク、太極拳などの講座を実施した。参加者は、楽しく運動することができ、また、運動を実施・再開するきっかけづくりをすることができた。			
課題	コロナ禍で講座全体が減少し、体を動かす講座も減少した。次年度以降については、安全に配慮しつつ、実施回数を増やしていく。			感染対策を講じて、体を動かす講座を実施することができた。次年度以降も引き続き、感染対策を講じ、実施回数、定員を増やしていく。			
	令和4年度			令和5年度			
成果	リズム体操、グラウンドゴルフ、リトミック、レクリエーションスポーツ、ウォーキング、散策、椅子に座って無理なくできるストレッチ等、各館が工夫して取り組んだ。参加者は、楽しく運動を行い、また、運動を実施・再開するきっかけづくりにもなり、満足度が高かった。			ステップ体操や気功・太極拳、地域の散策、ニュースポーツの体験等、様々な講座を各館が創意工夫して実施することができた。参加者は楽しく運動を行いながら、人とのつながりが持つことができたほか、運動の実施・再開のきっかけとすることができた。			
課題	コロナ禍による外出控えで参加者が減少した。暑さ対策や幅広い年齢層の参加を考慮して開催時期や曜日を選定する必要がある。			暑さ対策や、幅広い年齢層の参加を促すために開催時期・曜日の検討を行う必要がある。			
	令和6年度			令和7年度			
成果	健康づくり、運動の習慣作りを目的に下記の運動に取り組んだ。ボクササイズ、ノルディックウォーク、気功、太極拳、ヨガ、ストレッチ、体幹強化など			・ノルディックウォーキング、ヨガ、ボイストレーニング等、多様な健康プログラムを提供し、受講生の心身のリフレッシュや健康づくりに寄与した。 ・一部の講座については、受講生の要望を受け、その後、市民文化祭での発表やサークル活動につなげることができた。			
課題	幅広い年齢層の参加を促すために開催時期や曜日の検討を行う必要がある。また、夏季の熱中症対策など、開始時期に応じた対策が必要になる。			幅広い年齢層への参加を促すよう、開催時期や内容を検討するとともに、講座終了後、受講生による自主的な活動につなげられるような支援が必要である。			
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点			
様々な動きや手法を通して楽しく、健康づくり、仲間づくりができた。健康を維持し、心豊かな人生を送るための生涯学習の推進が図れる様々なプログラムが実施できた。				引き続き、幅広い年齢層の参加を促すために開催時期・曜日に配慮するとともに、受講後も継続して運動に取り組み、健康増進につなげられるような内容の充実を図りたい。			

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	29	取組名	市内で活動しているトップチーム等の試合開催の支援				担当課													
							生涯スポーツ課													
概要	市内等で活動しているトップチーム（オービックシーガルズのXリーグ、千葉ロッテマリーンズのイースタンリーグ等）の試合開催に対して支援し、市民が身近にスポーツ観戦する機会をつくっている。																			
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進												
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5			■施策6 □施策7 □施策8			□施策9 □施策10 □施策11 □施策12													
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をするをを目指す		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指す												
目標	市内で開催されるトップチームの試合について、HPや広報誌などで情報発信し、試合観戦者を増やします。 （対象となる試合は、アメリカンフットボール、千葉ロッテイースタンリーグとする。その他、単年度のみ行われる特別な大会等があれば参考として別に記載する。）																			
評価指標			評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）													
第一カッターフィールドと第一カッター球場におけるトップチーム等の試合観戦者数			試合観戦者数が増加すれば進捗している		5,045人		5,300人													
目標値	令和2年度	令和3年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度													
		5,100人		5,150人	5,200人	5,250人	5,300人													
	実績値	0人		1,000人	2,313人	2,424人	3,667人													
決算額	-	-		-	-	-	-													
評価		C		C	B	B	B													
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満																			
成果	令和2年度				令和3年度															
	観客を入れた試合は実施することができなかった。プロ野球やJリーグなどの試合運営など実証実験を行っているなかで、その実施方法を参考とし、秋津での有観客試合の実施にむけての課題を整理することができた。				観客を入れた試合がオービックシーガルズのホームゲームのみ（新型コロナウイルス感染症対策で収容人数の半数）となったため、目標値を下回る結果となった。今後も秋津での有観客試合の実施に向けて課題を整理していく。															
課題	次年度の試合開催に向け、更衣室・シャワーの使用やトイレの数など、コロナ対策における課題は多い。観客の入退場の動線や座席使用についても検討していく。				次年度の試合開催に向け、感染症対策における課題は多い。その他、現在の第一カッター球場の防球ネットに課題があり、イースタンリーグを開催できないことから、防球ネットの増設についての検討を進めていく。															
成果	令和4年度				令和5年度															
	第一カッターフィールドにてオービックシーガルズのホームゲーム1試合の他、Xリーグ4試合を有観客で開催した。また、サッカー関東大学リーグが5日間実施された。第一カッター球場の防球ネットの課題をクリアできず、イースタンリーグが開催できなかったこと、Xリーグの試合も5日中4日が雨天で客足が伸びず目標値を下回る結果となった。				第一カッターフィールドにてオービックシーガルズのホームゲームは2試合開催した。飲食店の出店等もあり、賑やかなイベントではあるが、来場者数が伸び悩んだ。また、プロ野球イースタンリーグや、その他独立リーグ等の試合については開催することができなかった。															
課題	第一カッター球場の防球ネットにおける課題解決は難しい。イースタンリーグ以外の試合を検討する。その他、オービックシーガルズの周知方法等の検討を行う。				イースタンリーグは、主催者より第一カッター球場の防球ネットの高さが足りず安全面に不安があるとの意見から今後も開催は難しい。オービックシーガルズの試合については、無関心層への周知方法について検討を行う。															
成果	令和6年度				令和7年度															
	第一カッターフィールドにてオービックシーガルズのホームゲームは春1試合、秋3試合の計4試合開催した。試合数を増加したことにより、来場者数も増加したが、目標値には至らなかった。また、プロ野球イースタンリーグや、その他独立リーグ等の試合については開催することができなかった。				第一カッターフィールドにてオービックシーガルズのホームゲームは春1試合、秋3試合の計4試合開催し、来場者数は昨年度よりも増加した。また、プロ野球イースタンリーグは開催に至らなかったが、令和7年度、千葉スカイセイラーズと包括連携協定を締結したことで、8年度の開催が見込まれる。															
課題	イースタンリーグについては、防球ネットの問題があることから、今後も難しい。オービックシーガルズのホームゲームについては、4試合にしたことにより、逆に分散傾向があるので、観戦目的だけでなく、他のイベント等を同時で開催する等の検討を行う。				イースタンリーグについては、防球ネットの問題があることから、今後も難しい。令和7年度、千葉スカイセイラーズと包括連携協定を締結したことで、8年度からの開催が見込まれるため、どのような支援ができるか協議を進める必要がある。															
施策目標値に対する総評価					次期計画に向けての改善点・留意点															
市内で活動するオービックシーガルズの試合開催支援を通じ、市民がトップレベルのスポーツを身近に観戦する機会を提供し、スポーツへの関心向上に寄与した。					引き続き試合開催支援を行い、また、千葉スカイセイラーズとの協定を活かしながら、市民がトップレベルのスポーツを身近に観戦できる機会のさらなる充実を図る必要がある。あわせて、効果的な周知や関連イベントの実施により、「みるスポーツ」の魅力を高め、より多くの市民がスポーツ観戦に親しめる環境づくりを進めていくことが重要である。															

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	30	取組名	オービックシーガルズへの協力・支援				担当課	産業振興課→生涯スポーツ課
概要	ホームゲーム開催に伴う、支援や広報活動を行う。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 ■施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指す		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指す
目標	ホームゲーム等、試合開催に関する情報を、広報やHP、Twitter等にて発信することで、より多くの地域住民に競技会場で観戦してもらう。ホームゲーム時には、人的支援を行い、円滑に試合運営を行う。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断			基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）	
観客動員数		観客が増加していれば進捗している。			1,634人		2,000人	
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
目標値		1,650人	1,700人	1,800人	1,900人	2,000人		
実績値	—	約1,000人 （※収容制限有り 詳細はコメント欄）	1,346人	2,424	3,667人	4,945人		
決算額（参考）	—	—	—	—	—	—		
評価		C	C	A	A	A		
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満							
	令和2年度			令和3年度				
成果	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となった。			新型コロナウイルス感染症の影響により、感染症対策、収容上限や外周での出店関係に制限を設けた中での開催となり、令和3年度目標値に達することはできなかったが、当日の収容人数上限に対して約100%の観客を動員することができた。				
課題	来年度以降は、新しい生活様式に合わせて、地域住民が安心して現地観戦できるよう十分な感染症対策をした上で、試合開催をする必要がある。			引き続き感染症対策を講じた上で、新しい生活様式に対応したサブイベント等試合以外の部分でも、現地観戦を楽しめるものを検討していく必要がある。				
	令和4年度			令和5年度				
成果	3年ぶりに人数制限が無い中での開催となったが、令和4年度目標値の来場者数に達することはできなかった。来場者については、コロナ対策のため、声援等に制限があるなかで、グッズの使用や拍手等による工夫をし、観戦を楽しむ姿が見られた。			市内小学校へのチラシ配布の協力や保護者向け電子掲示板の活用、SNSを通じた広報活動を実施し、結果として昨年度を上回る集客数となった。運営についても習志野市スポーツ推進委員へ協力者を募り支援した。				
課題	アフターコロナでの開催（9月）となり、これまで以上に来場者を増やせるよう、商工会議所やリーグ運営者と協力し、試合以外にも体験型のサブイベントや出店の出店等により、スタジアムでの観戦を楽しめるよう企画を行ったが、雨天等もあってか観客数が伸びなかった。			今後の観客数の増加を見越し、運営への協力方法や施設の付帯設備等について問題はないか、主催者へ適宜確認をしながら支援していく。				
	令和6年度			令和7年度				
成果	ホームゲームの回数を昨年度の2回から春1回、秋3回、計4回に増加したことにより、来場者数も増加した。運営についても習志野市スポーツ推進委員へ協力者を全試合で募り支援した。			ホームゲームを春1回、秋3回の計4回開催した。ハーフタイムショーに習志野高校吹奏楽部、第四中学吹奏楽部を招き、幅広い層に試合を観戦していただくことができた。運営についても習志野市スポーツ推進委員へ協力者を全試合で募り支援した。				
課題	4試合の開催にしたことにより、来場者が分散する傾向があるので、観戦目的だけでなく、他のイベント等を同時に開催する等の検討を行う。			来場者数は目標を大きく上回ったものの、一過性の集客にとどめず、継続的な観戦者の定着につなげるため、効果的な情報発信方法の検証と、リピーター確保に向けた取組の充実が必要である。				
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点				
年間1試合開催から4試合の開催へと拡大し、広報活動等により来場者数も増加した。市民がトップレベルの競技を身近に観戦する機会が広がり、「みるスポーツ」の推進や地域のスポーツへの関心を高めることにつながった。				引き続き関係団体と連携しながら、より多くの市民が観戦しやすい周知方法や参加しやすい環境づくりを進め、「みるスポーツ」のさらなる推進と地域のにぎわい創出につなげていく。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	31	取組名	スポーツ大会、イベントの情報発信				担当課	
							生涯スポーツ課	
概要	市内で開催されるスポーツ大会やイベントの情報を発信できるようホームページや市広報等の充実を図ります。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 ■施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを旨します
目標	効果的なスポーツ情報の発信により、市民がスポーツを観戦する機会の拡大を図ります。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断			基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）	
市ホームページのスポーツ欄のアクセス数		アクセス数が増えているれば進捗している			367回		400回	
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
目標値		200回	250回	300回	350回	400回		
実績値	173回	186回	1,777回	1,681回	1,215回	2,210回		
決算額（参考）	—	—	—	—	—	—		
評価		C	A	A	A	A		
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未滿							
令和2年度				令和3年度				
成果	スポーツ大会・イベントについては広報紙、ホームページ等で周知を図ったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、多くの大会・イベントが中止になったことからアクセス数は目標値を大幅に下回った。			令和2年度に引き続き、スポーツ大会・イベントについては広報紙、ホームページ等で周知を図ったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、多くの大会・イベントが中止になったことからアクセス数は目標値を下回った。				
課題	コロナ禍において、大会・イベントの開催が少ないのはやむを得ないが、広報紙・ホームページ・ツイッター等複数の媒体を連携し、効果的な発信方法について検討していく。			コロナ禍において、大会・イベントの開催が少ないのはやむを得ないが、広報紙・ホームページ・ツイッター等複数の媒体を連携し、効果的な発信方法について検討していく。				
令和4年度				令和5年度				
成果	市のHPが改修され、これまで集計していたページではなく、新しいページに移行したため、以前との正確な比較をすることができない。			スポーツ大会・イベントについて広報紙、ホームページ等で周知をした。その結果、昨年度よりアクセス数は若干下回ったが、目標値を大幅に超えるアクセス数を獲得することができた。				
課題	引き続き、広報紙・ホームページ・ツイッター・LINE等複数の媒体を連携し、効果的な発信方法について検討していく。			継続して、広報紙・ホームページ・X・LINE等複数の媒体を連携し、情報の発信を行う。また、アクセス数は目標値に達しているため、各種イベントの様子がわかる写真等を掲載し、アクセスいただいた方に実施内容が伝わるような工夫の検討をする。				
令和6年度				令和7年度				
成果	スポーツ大会・イベントについて広報紙、ホームページでの周知だけではなく、LINEやX等のSNSを活用し、情報発信に努めた。昨年度よりアクセス数は下回ったが、目標値を大幅に超えることはできた。			広報紙やホームページに加え、SNSを活用した積極的な情報発信を継続したことで、多様な媒体を通じた周知体制の充実が図られた。アクセス数は前年度を上回り、目標値も大幅に超えていることから、市民への情報発信手段として高い成果が認められる。				
課題	継続して、広報紙・ホームページ・X・LINE等複数の媒体を連携し、情報の発信を行う。周知方法だけではなく、実施内容の工夫等を検討していく。			情報発信媒体は充実してきているものの、閲覧数の維持・向上に向けては、発信内容や配信タイミング、視覚的に伝わりやすい情報発信の工夫が求められる。				
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点				
広報紙やホームページに加え、LINEやX等のSNSを活用した情報発信を行うことで、スポーツ大会・イベントの周知強化が図られた。アクセス数は年度により増減があるものの、目標値を上回る成果が得られており、一定の情報発信効果が認められる。				アクセス数や閲覧数は一定の成果が見られる一方で、情報閲覧から大会・イベントへの実際の参加につなげる仕組みづくりが課題となっている。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	32	取組名	ツイッターを利用した情報発信			担当課								
						生涯スポーツ課								
概要	ツイッターを利用し、イベント内容、日時等の周知を行う。													
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進						
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5			□施策6 □施策7 □施策8			■施策9 □施策10 □施策11 □施策12							
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを旨します						
目標	イベント等を即時性や拡散力のあるツイッターで情報発信し、多くの市民がスポーツに触れる機会を増やす。													
評価指標			評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）							
ツイッターでの投稿数			投稿数が増えていれば進捗している		2回		20回							
目標値	令和2年度	令和3年度		令和4年度	令和5年度		令和6年度	令和7年度						
		5回		8回	12回		16回	20回						
実績値	26回	25回		37回	39回		23回	21回						
決算値	—	—		—	—		—	—						
評価		A		A	A		A	A						
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満													
成果	令和2年度				令和3年度									
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業の大半が昨年同様中止となってしまったが、その分、本市にゆかりのあるスポーツ選手や大会等の応援・紹介ツイートを実施し、最終目標値を超えるツイートを行うことができた。				昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業の大半が昨年同様中止となってしまったが、本市にゆかりのあるスポーツ選手や大会等の実績を写真と一緒に投稿したり、試合を実況するような投稿をしたりすることで、目標値を超えることができた。									
課題	ツイート数では目標を達成できたため、ツイートの質を上げるとともに、他方面でのツイートが出来ないか等を検討していく。				今年度は、様々なイベントや大会等が行われることが予想されるため、写真付きの投稿等を行うことで、より興味が湧き、目に留まるツイートができるよう検討をしていく。									
成果	令和4年度				令和5年度									
	新型コロナウイルス感染防止対策が緩和されたため、奨励大会も開催することができ、その様子を伝えるツイートができた。また、本市を本拠地とするオービックシーガルズに関するツイートを積極的に行ったため、目標値を超えることができた。				本市を拠点としたオービックシーガルズに関するポストだけではなく、奨励大会の様子等も積極的に情報発信したため、目標値を超えることができた。									
課題	オービックシーガルズのみならず、本市にゆかりのあるアスリートたちについてツイートしたり、奨励大会の告知や、総合型地域スポーツクラブの活動の紹介などを検討していく。				情報発信は積極的に実施しているが、総合型地域スポーツクラブについては会員数が思うように増加していないことから、次に繋がるような投稿が出来ていないということが考えられる。奨励大会や総合型地域スポーツクラブの活動の様子を継続してポストしていく中で、参加意欲を促すような投稿ができるよう検討する。									
成果	令和6年度				令和7年度									
	習志野市を拠点に置くオービックシーガルズをはじめ、JFLプリオベッカ浦安の情報、また、パラリンピック体操男子の結果、全中男子陸上100Mの結果等多岐にわたり、積極的に情報発信した。				X（旧Twitter）における情報発信において、写真活用を組み込む運用が定着し、一定の発信品質の標準化および運用改善につながった。									
課題	写真付きのポストは、ついていないものに比べインプレッション数が多くなる傾向があるため、写真を有効に使用し、多様な情報発信ができるよう検討していく。				写真を活用した情報発信において、投稿内容や表現方法にばらつきが生じる可能性があるため、一定の基準やルールの整理が課題となっている。									
施策目標値に対する総合評価					次期計画に向けての改善点・留意点									
X（旧Twitter）を活用した情報発信により、スポーツ大会やイベント情報を迅速かつ効果的に周知することができた。広報紙やホームページと併せて情報発信手段の充実が図られ、市民への周知拡大に一定の成果が認められる。					大会やイベント情報の掲載に加え、活動風景や参加者の声など、利用者が興味を持ちやすい内容を発信し、閲覧者の関心向上につなげる工夫が求められる。									

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	33	取組名	転倒予防体操推進員の育成・活動支援				担当課
							高齢者支援課
概要	寝たきりの主な原因のひとつである転倒・骨折を予防するために、「てんとうむし（転倒無視）体操」の普及を行う転倒予防体操推進員を養成し、転倒予防体操推進員に対して身近な地域で主体的な活動ができるよう支援及び研修を実施し、転倒予防体操推進団体にに対し補助金を交付する。						
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 □施策8		■施策9 ■施策10 □施策11 □施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します	施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します	施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します	
目標	定期的に転倒予防体操推進員を養成及び支援を実施し、地域で主体的な活動ができる転倒予防体操推進員が増え、長年活動し卒業する転倒予防体操推進員がいても世代交代が行われ、転倒予防体操推進員活動が維持される。						
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）	
①新規登録者数 ②転倒予防体操推進員数		①維持することが進捗している ②維持することが進捗している		①15人 ②127人		①10人 ②128人	
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
目標値		①10人 ②128人	①10人 ②128人	①10人 ②128人	①10人 ②128人	①10人 ②128人	
実績値	①7人 ②126人	①11人 ②137人	①10人 ②129人	①12人 ②134人	①6人 ②138人	①17人 ②128人	
決算（参考額）	515,000円	578,005円	646,798円	776,635円	868,413円	1,021,305円	
評価		B	A	A	B	A	
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満						
	令和2年度			令和3年度			
成果	コロナ禍のため予定していた一般公募は中止し推薦者のみ養成講座を実施。参加者7人全員が新規登録者となった。			例年の養成講座は15人の募集で実施していたが、10人に縮小して実施。11人参加し全員新規登録となった。補助金は、介護予防・日常生活支援総合事業補助金に一本化し、補助金の充足化を図った。			
課題	推薦者であったが地区活動に対する意識の個人差があった。養成講座終了後の活動支援の必要性を再認識した。			活動自粛などで思うような活動ができない推進員に対し活動意義を見出すための支援や、世代交代のため長年の功績に対する評価方法について検討していく。			
	令和4年度			令和5年度			
成果	養成講座には12人が参加し10人が新規登録となった。補助金は、新規申請団体が2団体あり、前年度から継続している12団体と合わせ計14団体に交付した。感染対策に取り組みながら各地区会や研修会を開催し、転倒予防体操推進員活動を支援した。			養成講座に12人が参加し12人全員が新規登録した。補助金は18団体に交付した。新しく活動を始めた団体や、活動休止から再開する団体などが新たに補助金を利用しており、推進員の主体的な活動を支援することができている。			
課題	転倒予防体操推進員の高齢化が課題である。新規推進員の養成および講座終了後の活動を支援する共に、既存の団体についてはそれぞれの団体の考えに合わせた活動支援を実施していく。			推進員の高齢化問題はどの地域も共通しているが、新規推進員の数には地域差が生じている。どの地域にも新しい推進員や新たな活動が生まれるよう高齢者相談センターなどと協力しながら支援していく必要がある。			
	令和6年度			令和7年度			
成果	養成講座に6人が参加し、全員が新規登録を行った。地区会や研修会を開催し、転倒予防体操推進員活動を支援した。特に新規登録者は研修会への参加が積極的に見られ、団体に所属し活動できている。補助金は20団体に交付した。			養成講座の募集年齢を80歳前後に引き上げたため既存の活動場所より後継者の申込者もあり、17人が新規登録を行った。補助金は新規申請2団体、前年度から継続している20団体と合わせて計22団体に交付した。地区会や研修会を開催し、主体的に活動ができるよう支援することができている。			
課題	推進員の高齢化に伴い、他の推進員の協力や新たな人材を求めることが増えている。また、雇用延長に伴い高齢就業者が増加していることもあり、新しい推進員の成り手が少ない。募集年齢の引き上げ等を検討し高齢者相談センターなどと協力しながら人材を発掘し支援を行う。			推進員の高齢化に伴い、後継者を求めている団体が増えている。新規推進員数は地域差が生じており、高齢者相談センターと協力し後継者の育成や活動継続の支援を行う必要がある。			
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点			
養成講座の募集年齢を引き上げや、高齢者相談センターとの連携により新規推進員は毎年度一定数養成することができている。活動団体の中で後継者への引継ぎを計画的に実施しており主体的に活動ができている。				推進員の高齢化や雇用延長に伴う高齢就業者の増加等の状況を踏まえながら、転倒予防体操推進員活動が維持されるよう活動支援をしていく必要がある。			

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	34	取組名	健康づくり推進員の育成・活動支援				担当課	
							健康支援課	
概要	健康づくりに関する研修会、学習会の開催							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5			□施策6 □施策7 □施策8		■施策9 ■施策10 □施策11 □施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します
目標	栄養や運動等健康づくりに関する研修会を開催し、推進員活動に生かせるよう支援する。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断			基準値（令和2年度）		最終目標値（令和7年度）	
健康づくり推進員支援回数（研修会等を含む）		健康づくり推進員支援回数を維持することが進捗している			活動支援回数12回		活動支援回数12回	
	令和2年度	令和3年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
目標値		活動支援回数12回		活動支援回数12回	活動支援回数12回	活動支援回数12回	活動支援回数12回	
実績値	活動支援回数12回	活動支援回数45回		活動支援回数54回	活動支援回数49回	活動支援回数77回	活動支援回数64回	
決算額（参考額）	4,998円	34,161円		14,881円	31,650円	170,106円	115,099円	
評価		A		A	A	A	A	
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満							
成果	令和2年度				令和3年度			
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動ができない状況が続いた。フレイル予防についての研修会を実施し、食事と運動の必要性について説明し、身近な人への伝達を図った。				健康づくり推進員養成講座を開催し、新たに7人が健康づくり推進員の登録をした。養成講座を活用し、健康づくりと運動、ヘルスプロモーション等について学習する機会を設けた他、YouTubeを活用した研修の案内を行った。定例会議の他、通知、電話等での支援を行った。			
課題	健康づくり推進員が高齢化しているため、新規推進員の養成が必要。				養成講座を行ったが、登録取り消し者もいる。新しい生活様式を取り入れた健康づくり活動支援と、健康づくり推進員の育成が必要となっている。			
	令和4年度				令和5年度			
成果	骨粗鬆症やフレイル予防について、栄養や口腔に関する内容をとり入れて研修会を開催した。また、発見ウォークの開催に向けて試し歩きを実施し、準備体操やコースの確認、歩く際の注意点等について確認した。				令和4年度に実施したフレイル予防に関する研修に追加し、運動に関する研修を実施した。研修で学んだ内容を活かし、健康づくり推進員が主体となって、体力測定・フレイル予防に関する講話・体操をパッケージにしたプログラムを市民対象に実施した。また、健康フェアでは、握力測定や食事・運動のポイントについて幅広い年代に啓発した。			
課題	ウォーキングだけでなく、健康づくりのための運動として、フレイル予防についての学習や研修を進めていく必要がある。				幅広い知識・技術を身につけ、更に活動の幅を広げるために、定期的な活動支援を継続すると共に、健康づくり推進員の増員が必要となる。			
	令和6年度				令和7年度			
成果	健康づくり推進員による寿学級での市民へのフレイル予防パッケージプログラムは定着し、4公民館で実施。フレイル予防に関する研修を継続実施。また、3年ぶりに養成講座開催し、健康づくりと運動、ヘルスプロモーション等について学習する機会を設け、32名の新規登録があった。活動の場を広げたいとの要望もあり、次年度から新たに実施する測定会に関する研修も実施。				フレイル予防パッケージプログラムは6公民館で実施することができた。また、新規事業の“測定会”は年9回実施し、1回平均71.4人が参加する人気イベントとなった。リピーターも多く、参加者アンケートでも高評価であった。			
課題	推進員の増加により、フレイル予防パッケージプログラム実施数増をめざす。次年度新規事業の“測定会”では、握力測定やみそ汁の塩分測定など身近な健康問題を切り口とし、健康づくり推進員が行うボビュレーションアプローチを定着させていく。				測定会の参加人数が当初の想定より大幅に上回ったことで、当日担当する健康づくり推進員の人数が不足する事態があった。安全に実施できるよう、事業運営体制を見直していく。			
施策目標値に対する総合評価					次期計画に向けての改善点・留意点			
毎月定例会を開催。その中で、健康に関する研修会を実施し、推進員活動に活かせるよう支援できた。測定会やフレイル予防パッケージプログラムでは、推進員が積極的に健康情報を市民に伝えることが出来ていたため、目標は達成したと考える。					意欲の高い推進員自身が、現在のモチベーションを保ちながら活動を続けていけるように支援する必要がある。市民から好評であり、推進員が意欲的に取り組んでいる測定会を安全に継続して実施できるように体制を構築することが急務である。			

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	35	取組名	大学との連携協働による健康なまちづくりの推進			担当課 健康支援課		
概要	本市と「連携協働に関する協定」を締結した順天堂大学の協力により、大学が保有する人的・知的資源を活用した、連携協働による健康づくり・体力づくりに取り組む。小学校高学年（４・５・６年生）を対象に、子どもが正しい生活習慣について考え、体を動かすことの楽しさを知って運動習慣を身につけるきっかけをつくることで、将来的な生活習慣病を予防するとともに、学外における他者とのふれあいによって社会性を高め、より健康で幸せな生活を送るための学びの機会を提供する。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 ■施策11 □施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指す
目標	こども健康大学の開催についてＨＰや広報等で情報発信、市内の小学校にチラシを配布することで広く周知し、参加者の増加に努める。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和７年度）		
参加人数		参加者が増加していれば進捗している。		49人		60人		
目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
	—	49人	50人	53人	57人	60人		
実績値	—	—	27人	36人	19人	16人		
	—	—	20千円	184千円	80千円	63千円		
評価	—	C	C	B	B	B		
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未達							
成果	令和2年度			令和3年度				
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。			新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。				
課題	次年度以降については、新しい生活様式に合わせた内容での実施を検討していく必要がある。			令和4年度については、新しい生活様式に合わせた内容での実施を検討していく必要がある。				
	令和4年度			令和5年度				
成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大学施設が利用できず連携協働事業については中止となった。規模を縮小し、オービックシーガルズによるスポーツ教室及び栄養士・歯科衛生士（市職員）による座学を実施した。			「連携協働協定書に関する協定書」を締結した順天堂大学、及びオービックシーガルズの協力を得て、小学校高学年（４、５、６年生）を対象に健康について学び体験する機会を２日間実施した。				
	次年度については関係機関と連携を図り、実施に向け取り組んでいく。コロナ禍の３年の間に本市、関係機関の職員等がすべて入れ替わっていることから事業目的、実施体制などしっかりと理解し進めていく必要がある。			参加申し込み後、熱中症が心配との理由で欠席する子が数名いたため、開催時期や場所について配慮する必要がある。				
成果	令和6年度			令和7年度				
	「連携協働協定書に関する協定書」を締結した順天堂大学、及びオービックシーガルズの協力を得て、小学校高学年（４、５、６年生）を対象に健康について学び体験する機会を実施した（１日開催）。			「連携協働協定書に関する協定書」を締結した順天堂大学、及びオービックシーガルズの協力を得て、小学校高学年（４、５、６年生）を対象に健康について学び体験する機会を実施した（１日開催）。				
課題	空調機能がある体育館で実施をしているが、熱中症予防の観点から開催時期の見直しを検討する必要がある。開催時期の見直しにあたっては協力をいただいている順天堂大学およびオービックシーガルズとの調整も必要。			空調機能がある体育館で実施をしているが、熱中症予防の観点から開催時期の見直しを検討する必要がある、協力団体である順天堂大学及びオービックシーガルズとの調整が必要となる。 また、参加人数が減少しており、人数を増やすための周知方法等について検討する必要がある。				
	施策目標値に対する総合評価			次期計画に向けての改善点・留意点				
本計画期間内で、コロナ禍の影響を踏まえ、これまで２日開催であったものが１日開催となり、内容が大きく変更したことから、目標値と実績値に大きな乖離が生じた。				１日開催に変更となったが、参加人数が減少していることが課題となっている。周知方法等について検討する必要がある。 開催時期が夏期となっており、熱中症予防の観点から協力団体と開催時期の見直しを検討する必要がある。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	36	取組名	学校体育施設（プール含む）の開放				担当課
							生涯スポーツ課
概要	土・日曜日、及び休日に市内各小学校体育施設の開放を実施する。 夏季休業中に市内各小学校のプール開放を実施する。						
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③
	■施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 ■施策11 □施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します	施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します	施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します	
目標	市立小学校の体育施設を学校教育に支障のない範囲で運動の場として地域住民へ提供することにより、スポーツに親しむ機会を与え健康の増進と明るいまちづくりに役立てる。						
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）	
①開放回（日）数 ②利用者数		①日数を維持することが進捗している ②利用者を維持することが進捗している		学校体育施設 ①開放回数 1,624回 ②参加者 201,517人 学校水泳プール ①開放回数 36日 ②参加者数 3,957人		学校体育施設 ①開放回数 1,624回 ②参加者 201,517人 学校水泳プール ①開放回数 36日 ②参加者数 3,957人	
目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	学校体育施設 ①開放回数 1,600回 ②参加者 201,000人 学校水泳プール ①開放回数 35日 ②参加者数 3,900人	学校体育施設 ①開放回数 1,527回 ②参加者 186,793人 学校水泳プール 未実施	学校体育施設 ①開放回数 1,600回 ②参加者 201,000人 学校水泳プール ①開放回数 35日 ②参加者数 3,900人	学校体育施設 ①開放回数 1,782回 ②参加者 194,363人 学校水泳プール ①開放回数 30日 ②参加者数 2,288人	学校体育施設 ①開放回数 1,746回 ②参加者 199,901人 学校水泳プール ①開放回数 28日 ②参加者数 2,085人	学校体育施設 ①開放回数 1,700回 ②参加者 186,395人 学校水泳プール ①開放回数 28日 ②参加者数 1,653人	
実績値	学校体育施設 ①開放回数 1,383回 ②参加者 162,650人 学校水泳プール 未実施	学校体育施設 ①開放回数 1,527回 ②参加者 186,793人 学校水泳プール 未実施	学校体育施設 ①1,782回 ②223,096人 学校水泳プール ①開放回数 25日 ②参加者数 1,322人	学校体育施設 ①開放回数 1,786回 ②参加者 194,363人 学校水泳プール ①開放回数 30日 ②参加者数 2,288人	学校体育施設 ①開放回数 1,746回 ②参加者 199,901人 学校水泳プール ①開放回数 28日 ②参加者数 2,085人	学校体育施設 ①開放回数 1,700回 ②参加者 186,395人 学校水泳プール ①開放回数 28日 ②参加者数 1,653人	
（参考） 水泳	学校体育施設 320,000円 学校水泳プール 0円	学校体育施設 320,000円 学校水泳プール 0円	学校体育施設 320,000円 学校水泳プール 4,708,000円	学校体育施設 320,000円 学校水泳プール 5,588,000円	学校体育施設 320,000円 学校水泳プール 5,324,850円	学校体育施設 320,000円 学校水泳プール 5,115,000円	
評価	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満						
成果	令和2年度			令和3年度			
	体育館・グラウンドの開放は感染症対策のため6月14日まで事業を中断していたものの15日より再開。各学校とも少年から一般まで多くの利用団体が学校体育施設を利用し、スポーツ活動等が行われた事でスポーツが推進された。 プール開放については、感染症対策のため事業を中止とした。			コロナ禍でも、利用団体ごとに感染症対策を施し、活動を行った。各地区において少年から一般まで多くの利用団体が活動を実施しており、市内のスポーツは推進された。			
課題	プール開放については感染症対策のため事業実施を中止としたため、次年度、開催できる場合には周知を行っていく。また、学校開放については、引き続き感染症対策をしっかりと行い実施していく。			学校体育施設の開放については、今後も感染状況に合わせた対策を取り実施していく。プール開放については、各学校での水泳学習とも歩調を合わせ、実施できるよう準備していく。多くの方が参加できるよう開催地区も検討していく必要がある。			
成果	令和4年度			令和5年度			
	学校体育施設の開放に関しては、開放回数、参加者数と目標値を超えることができた。しかしながら学校水泳プール開放は再開できたものの、開放回数、参加者数は人数制限しての実施、施設の故障のため目標値を下回ってしまった。			本事業は、市内小中学校を対象に実施している大規模改修工事により毎年度、実施方法や回数にはばらつきが生じるものである。 学校体育施設の参加者数について、新規団体の参加が少なかったことから目標値を下回ったと考える。学校水泳プールの開放については、実施校数が4校（前年度5校）と減少したが、1校のみ開放日数を延長したため、例年同様の開放数を確保することが出来た。また、申込人数の増員や当日の受け入れ等柔軟な対応を行い、参加者数は大幅に増加した。			
課題	学校体育施設の開放に関しては、引き続き同様の対応をしていき、学校水泳プールは、開催されていることを知っていただくために周知を行っていく。			学校体育施設の開放に関しては、現状で新規団体が参加する余地がないことが参加者数が減少した要因であると考え、新規団体の参加について既存団体と協議し受け入れ態勢を整えていくことが課題である。 学校水泳プールは、開催の周知を様々な媒体を駆使すること、また開放校が限られている中での運営方法を検討し、参加人数を増加させることが課題である。			
成果	令和6年度			令和7年度			
	学校水泳プールの開放については、開放日数が28日（前年度30）と減少したが、荒天による中止が多い中、昨年に近い参加者数を確保することが出来た。また、学校への周知や当日の受け入れ等柔軟な対応を行い、参加者数を維持することが出来た。			学校体育施設の開放に関しては、体育館空調の設備工事に伴い、利用できない期間があったが、事前に周知を行ったことで円滑に運営することができた。また、学校水泳プールは、開放日を午前中のみとしたことから、参加者数が減少したが、開放日数は、前年度と同程度を維持することができた。			
課題	学校体育施設の開放に関しては、令和7年度より体育館空調の設置工事が始まることから、利用日等の制限や運営方法について周知徹底する必要がある。また、学校水泳プールは、プール開放地区に偏りがあるため、開放校の選定及び協議を進める必要がある。			学校体育施設の開放に関しては、令和8年度は一部学校にて体育館LED工事があるため、周知が必要となる。また、学校水泳プールは、施設の老朽化が著しいが、修繕に関する予算確保が難しく修繕ができていない現状があるため、関係各課への協議及び運営方法について協議を進める必要がある。			
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点			
学校体育施設（プール含む）を開放することにより、地域住民の健康増進やスポーツ機会の拡充を図ることができた。また、学校施設を運動の場として地域住民へ提供することにより、地域コミュニティの形成に寄与することができた。				学校体育施設の開放事業を継続・発展させていくためには、安全性の確保と関係団体との連携が重要であることから、引き続き連携を図りながら、持続可能な管理運営体制を構築していく必要がある。			

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	37	取組名	公共建築物再生計画の実施			担当課																				
						生涯スポーツ課																				
概要	公共建築物再生計画に掲載されている施設の改修等を検討するとともに、袖ヶ浦スポーツゾーン構想を含め、官民連携による公共施設再生など、調査研究を行い、適切な改修を行う。																									
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進																		
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5			□施策6 □施策7 □施策8			□施策9 □施策10 □施策11 ■施策12																			
	施策目標値		市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値		市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指す		施策目標値		市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指す															
目標	官民連携事業手法を用いた改修について調査研究を行い、実践する。																									
評価指標			評価指標に対する実績値の判断			基準値（令和元年度）			最終目標値（令和7年度）																	
調査研究を行った官民連携事業手法の内容			実施の有無			なし			官民連携事業手法により改修を実施する。																	
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度															
目標値			秋津地区のスポーツ施設改修について基本計画の策定を行う。		第2次公共建築物再生計画中間見直しにて前倒しを要望する。		再生計画により策定した方針に基づく整備を検討する。		秋津サッカー場人工芝化整備の仕様を確定し、工事準備をする。		秋津サッカー場グラウンド人工芝化整備工事完成と建物危険箇所の維持管理。															
実績値	秋津公園とスポーツ施設等一体的再整備の官民連携事業手法等調査業務委託を実施し、コンセッション方式での事業可能性について検討を行った。		秋津サッカー場・秋津野球場等の再整備基本方針を策定した。		前倒しは認められず、人工芝化と建築物の老朽化対策を分けて考える方針が示された。		秋津野球場・サッカー場の人工芝化について、再生計画とは切り離して進める方針となったことから、人工芝化の先行実施について検討を進めた。		秋津サッカー場グラウンド人工芝化整備工事の次年度予算確保（補助金申請含む）と、委託とせず設計・概算、図面作成を完成させた。		秋津サッカー場グラウンド人工芝化整備工事を施工完了した。															
決算（参考）	13,982,555円		11,999,999円		0		0		0		395,967,000円															
評価			B		B		B		A		A															
《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満																										
令和2年度							令和3年度																			
成果	秋津公園とスポーツ施設等一体的再整備の官民連携事業手法等調査業務委託を実施し、コンセッション方式での事業可能性について検討を行った。						R2年度調査結果より、事業範囲を秋津公園内のスポーツ施設等に限定した。再整備計画を策定予定であったが、庁内各種会議の結果、教育委員会における方針策定に留めることとなった。また、R3年度に見直された生涯学習施設整備計画では秋津サッカー場と秋津野球場の改修時期について前倒しでの実施の検討を明記しており、第2次公共建築物再生計画等の見直し時には本方針との連携を図っていただくよう依頼した。																			
課題	民間事業者へのヒアリングの結果、コンセッション方式での改修は不可能であることが判明した。一方で、PFI方式での事業可能性が示唆されたことから、今後はPFI方式での整備について検討を進めていく。						策定した方針に基づく整備を検討する。																			
令和4年度							令和5年度																			
成果	第2次公共建築物再生計画の見直しによる工期前倒しは認められなかったが、人工芝化については、建築物ではないため、再生計画とは切り離して進めることが示された。						秋津サッカー場の人工芝化について、再生計画と切り離して進める方針が示されたため、計画に先行して実施する方向で精査し、サッカー協会の理解を得ながら図面の作成と財源の確保を検討した。																			
課題	民間活力の活用を検討など再整備の方向性を整理した上で、R7の本見直しに前倒しを再度依頼する。人工芝化を先行実施できるよう検討する。						第2次公共建築物再生計画にて各施設の整備時期が設定されたが、施設利用における安全面からすると、老朽化が著しい部分の対策が急務であるため、R7の本見直しにて計画の前倒しを再度依頼する。																			
令和6年度							令和7年度																			
成果	再生計画と切り離した秋津サッカー場人工芝化は次年度予算が確定し発注準備も整った。第2次公共建築物再生計画の改修スケジュール案について袖ヶ浦体育館建替計画が改修となっていることと、東部体育館改修時期が先送りになっていることに意見した。						秋津サッカー場人工芝整備工事をスケジュール通り施工を完了し、独立行政法人日本スポーツ振興センターより補助金交付も受領することができた。																			
課題	第2次公共建築物再生計画の第2期では建替・機能向上・長寿命化改修・大規模改修工事の時期にないことから機能維持や建物の安全、改修については小工事や修繕にて対応しているが、多数あり追いつかない。「秋津公園とスポーツ施設等一体的再整備の官民連携事業手法等調査」の結果、民間収益施設の設置や独立採算での事業運営は難しいとの報告を受け、民間資金の確保は難しいことから、改修方法や予算確保を慎重に検討する必要がある。						第3次公共建築物再生計画が策定され、直近での建替・機能向上・長寿命化改修・大規模改修工事の時期にないことから、優先順位をつけ、工事等を行っているが、予算確保が難しい現状があるため、改修方法を含め、財政部局との協議が必要がある。																			
施策目標値に対する総合評価							次期計画に向けての改善点・留意点																			
「秋津公園とスポーツ施設等一体的再整備の官民連携事業手法等調査」の結果を受け、再整備の事業手法については、従来どおりの公費による改修や指定管理者による維持管理も想定しつつ、併せてPFI手法の検討も進めることとした。第2次公共建築物再生計画の中間見直しにおいて、人工芝化ということについては、建築物ではないため計画とは切り離して検討を進めることとされ、計画通りに秋津サッカー場の人工芝化を施工することができた。							第3次公共建築物再生計画が策定され、直近での建替・機能向上・長寿命化改修・大規模改修工事の時期にないことから、優先順位を見直し随時対応していく必要がある。																			

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	38	取組名	スポーツ振興協会への活動支援				担当課						
							生涯スポーツ課						
概要	各種スポーツ教室やイベントの開催及び公民館や幼稚園等へ協会職員を派遣し、実技指導や講義を実施するなど、市民の体力向上と本市のスポーツ推進に寄与している協会に対し、スポーツ振興協会活動費等補助金の交付要綱に基づき補助金を交付するもの。												
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進					
	■施策1 ■施策2 □施策3 ■施策4 ■施策5		□施策6 □施策7 ■施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12								
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します					
目標	習志野市民一人ひとりが生涯にわたり親しむ豊かなスポーツライフの実現を目指すべく、当該財団のスポーツの普及及び推進に関する事業に対し補助金を交付し必要な支援を行う。												
評価指標		評価指標に対する実績値の判断			基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）						
①補助金実績額		補助金の金額が増えていれば進捗している。			59,267,187円		61,449,000円						
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度							
目標値		61,449,000円 (令和3年度予算額)	62,228,000円 (令和4年度予算額)	62,601,000円 (令和5年度予算額)	89,670,000円 (令和6年度予算額)	95,536,000円 (令和7年度予算額)							
実績値	59,348,950円	60,818,124円	58,004,854円	58,668,097円	89,670,000円	93,934,420円							
決算（参考額）	59,348,950円	60,818,124円	58,004,854円	58,668,097円	89,670,000円	93,934,420円							
評価		A	A	A	A	A							
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未滿												
令和2年度				令和3年度									
成果	スポーツ振興協会活動費等補助金として59,348,950円交付した。これにより当該協会は10種目のスポーツ教室を行い延べ1,798人が参加した。また、イベント・大会等の講師派遣として7件の事業に携わり、当該事業の参加者は延べ1,258人であった。			スポーツ振興協会活動費等補助金として60,818,124円交付した。これにより当該協会は11種目のスポーツ教室を行い延べ1,173人が参加した。また、イベント・大会等の講師派遣として9件の事業に携わり、当該事業の参加者は延べ3,092人であった。									
課題	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった教室や、大会があり、例年よりも参加者の落ち込みが見られた。			新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった教室や大会もあったが、時期や実施方法を検討し、昨年度よりも参加者を増やすことができた。									
令和4年度				令和5年度									
成果	スポーツ振興協会活動費等補助金として58,004,854円交付した。これにより当該協会は10種目のスポーツ教室を行い延べ2,362人が参加した。また、イベント・大会等の講師派遣として5件の事業に携わり、当該事業の参加者は延べ1,488人であった。さらに、新たにストレッチや簡単な運動の動画を作成し、配信を行った。			スポーツ振興協会活動費等補助金として58,668,097円交付した。これにより当該協会は10種目のスポーツ教室を行い延べ2,642人が参加した。また、イベント・大会等の講師派遣として14件の事業に携わり、当該事業の参加者は延べ4,885人であった。さらに、HPへの動画掲載に加え、新たなSNSを活用し動画の配信を行った。									
課題	今年度、開催できなかったイベントや人数制限を設けたイベント等について、再度、運営方法等を検討し、開催する。			イベントの参加人数及び講師派遣事業実施数がコロナ前の値まで回復してきているため、例年実施しているイベントの見直しだけでなく、新規イベント等も検討する。									
令和6年度				令和7年度									
成果	文化スポーツ振興財団活動費等補助金として89,670,000円交付した。これにより当該財団は10種目のスポーツ教室を行い延べ2,362人が参加した。また、イベント・大会等の講師派遣として10件の事業に携わり、当該事業の参加者は延べ1,379人であった。また、文化ホールと合併したことで、文化とスポーツを融合させたイベント等に取り組んだ。			文化スポーツ振興財団活動費等補助金として93,934,420円交付した。これにより当該財団は12種目のスポーツ教室を行い延べ2,131人が参加した。また、イベント・大会等の講師派遣として5件の事業に携わり、当該事業の参加者は延べ867人であった。また、昨年度に引き続き、文化とスポーツを融合させたイベント等に取り組んだ。									
課題	引き続き実施するイベント等の見直しの他、新規事業や文化を含めたイベントの検討をしていく必要がある。			引き続き実施するイベント等の見直しの他、新規事業や文化を含めたイベントの検討をしていく必要がある。									
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点									
コロナ禍による事業への影響がある中でも、文化スポーツ振興財団への活動支援を通じて、段階的な事業再開と市民の文化・スポーツに親しむ機会の確保につなげることができた。一方で、社会状況や市民ニーズの変化への対応が課題としてあり、今後は財団との連携をさらに深めながら、より効果的な事業展開を支援していく必要がある。				社会状況や市民ニーズの変化を的確に捉えながら、文化・スポーツ事業のさらなる充実を図るとともに、文化スポーツ振興財団との連携を一層強化していく必要がある。また、多様な世代が参加しやすい事業展開や効果的な情報発信を進め、市民がより身近に文化・スポーツに親しめる機会の創出に留意していくことが重要である。									

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	39	取組名	健康マイレージの実施				担当課										
							健康支援課										
概要	誰もが健康で幸せな生活を送ることができるよう、健康的な生活習慣の動機付け、その継続と定着を後押しする。日々の運動や地域活動に参加するなど健康習慣につながる活動を行うことでポイントを獲得し、3か月間で「イベントポイント・セルフポイント」合わせて100ポイント以上獲得すると「健康きらっとナラシ♪カード」（以下サービスカード）の交付を申請でき、このカードを協力店に提示すると各店舗独自の特典（サービス）が受けられる。																
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進									
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 ■施策5			□施策6 □施策7 □施策8			□施策9 □施策10 □施策11 □施策12										
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します									
目標	広報誌、HP等で幅広い世代にPRし、サービスカードの発行枚数（参加者）の増加に繋げる。																
評価指標			評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和2年度）		最終目標値（令和7年度）										
サービスカードの発行枚数			発行枚数が増加していれば進捗。		13枚		40枚										
目標値	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度								
	20枚		25枚		30枚		35枚		40枚								
実績値	13枚		22枚		28枚		市11枚 県42枚		38枚								
決算額（参考）	—		—		—		—		—								
評価	A		A		C		A		B								
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未達																
成果	令和2年度				令和3年度												
	令和2年度は新型コロナウイルス感染症によるイベント等の中止によりポイントが貯めずらく、参加者が大幅に減少した。				令和3年度は新型コロナウイルス感染症によるイベント等の中止によりポイントが貯めずらい状況であったが、目標値を超えることができた。												
課題	若年層の参加が少ない為、実施方法等、新しい生活様式に合わせた内容への見直しが必要。				県の「元気！健康チャレンジ事業」において、令和4年度中にシステム化を検討している為、県の動向を確認しながら、連携に向けて事業の見直しが必要。（協力店の確認やポイントの見直しなど）												
成果	令和4年度				令和5年度												
	感染症拡大防止を念頭に入れながらイベント等も少しずつ開催されたが、ポイントが貯めずらい状況は依然変わらなかったものの、目標値を超えることができた。				協力店の確認を行い、現状利用できる店舗実態に更新した。（63店舗⇒53店舗）千葉県システムの活用について検討を行った。												
課題	千葉県の「元気！健康チャレンジ事業」において、県のシステム化等、状況を確認し、連携に向けて事業の見直しが必要。（協力店の確認やポイントの見直し含む）				年間サービスカードの発行枚数の減少。一部の高齢者の利用固定化。												
成果	令和6年度				令和7年度												
	令和6年12月20日から千葉県が実施している「元気ちば！健康チャレンジ事業」と連携したことに伴い、発行枚数が増加した。				千葉県が実施している「元気ちば！健康チャレンジ事業」と連携し、周知を行った。												
課題	事業への参加者の増加を目指し、市民への情報発信が必要。				事業への参加者の増加を目指し、市民への情報発信が必要。												
施策目標値に対する総合評価					次期計画に向けての改善点・留意点												
千葉県が実施している「元気ちば！健康チャレンジ事業」と連携したことに伴い、発行枚数が増加し、目標値に近づけることができた。					事業への参加者の増加を促すため、千葉県が実施している「元気ちば！健康チャレンジ事業」の周知を図る必要がある。												

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	40	取組名	スポーツ団体等による市民まつりにおけるスポーツコーナー運営支援			担当課
						生涯スポーツ課
概要	市民まつりにおいて、スポーツ団体（スポーツ推進委員、市民スポーツ指導員、スポーツ少年団等）が運営しているスポーツコーナーの運営を支援します。					
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進	
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		■施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12	
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します	
目標	ポケットボールやディスゲッターナイン等の難易度の低いスポーツを実施し、普段スポーツをしない人にも体験してもらう。また、多くの市民が交流する市民まつりで実施することで、市民まつり来場者のスポーツへの関心を高め、参加してもらう。					
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）
参加人数 （大人、子ども）		人数が増えていれば進捗している		537人 （156人、381人）		570人 （170、400）
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値		—	540人 （157人、383人）	550人 （160人、390人）	560人 （165人、395人）	570人 （170、400）
実績値	—	—	602人 （146人、456人）	997人 （115人、882人）	1,167人 （264人、903人）	1,047人 （151人、896人）
（参考） 決算額	—	—	—	—	—	—
評価		C	A	A	A	A
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満					
	令和2年度			令和3年度		
成果	新型コロナウイルス感染症により市民まつりが中止となったことに伴い本取組も中止となった。			新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、市民まつりが中止となったことに伴い本取組も中止となった。		
課題	コロナ禍でも実施できる競技を検討していく。			市民まつりが実施される場合は、感染防止対策に配慮しながら実施できる競技を検討していく。		
	令和4年度			令和5年度		
成果	モルック、ポケットボール、ラダーゲッターを実施。子どもに関しては目標値を上回る人数に体験してもらうことができた。			延べ体験者数は目標値を大きく上回る結果となった。未就学児も参加できるポケットボールの他、来場者同士で対戦をするモルックを取り入れたことで、来場者の興味を引くことができた。		
課題	大人は目標値まで到達していない。大人のスポーツへの関心を高めるための工夫が必要である。予想を上回る来場者数となり長い待ち時間が発生した。種目数に対しスタッフ数が足りない時間帯があった。種目数、運営方法を検討。			モルックの体験希望者は事前に受付を済ませ指定の時間に戻るようお願いをしたが、指定した時間に現れず、対戦相手の待機時間が生じてしまった。市民まつりで行うということを念頭に、競技内容の妥当性も含め運営方法の見直しを行う。		
	令和6年度			令和7年度		
成果	延べ体験者数は初めて1,000人を超える結果となった。前年度の反省を活かして、対戦チームが来なかった場合、手の空いている指導員が対戦相手になったりと、臨機応変に対応することができた。			参加人数が前年度と比較し微減となったものの、引き続き1,000人超える延べ人数が参加し、目標値を大きく上回る結果となった。		
課題	予想を上回る来場者数となり、早い段階で整理券の配布が終了したこともあり、競技時間の間隔や、会場のレイアウトの見直しを検討する。			限られたスペースでの実施だったため、導線の確保に苦慮することがあった。次年度以降についても同規模の参加人数を想定し、より円滑な運営ができるように対応する。		
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点		
市民まつりのように、気軽に誰もが参加できる場所で、スポーツに触れる機会を創設できたことは非常に重要であると思料する。特に令和6年度・7年度については参加人数が1,000人を超える想定以上の参加となり、目標値を大きく上回る結果となった。				基準値、最終目標値ともに大きく上回る結果となった。次期計画期間においても、この結果を維持できるよう、当日の運営が円滑に進むよう、前年度以前の反省点があれば活かして進めていく。		

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	41	取組名	千葉ロッテマリーンズへの協力・支援				担当課
							生涯スポーツ課
概要	習志野市デーの開催や千葉ロッテマリーンズの一軍の試合の市民招待、さらには、市内でイースタンリーグを開催し、市民のスポーツ観戦の充実を図っている。						
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		□施策6 ■施策7 □施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12		
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します	施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指す	施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指す	
目標	千葉ロッテマリーンズへの協力事業である、一軍試合の市民招待と市内でのイースタンリーグ開催を継続して行います。						
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）	
実施数		同数なら進捗している		2回		2回	
目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
		1回	2回	2回	2回	2回	
実績値	1回	0回	市民招待2回	市民招待2回	市民招待2回	市民招待4回	
（参考） 決算参照	-	-	-	-	-	-	
評価		C	A	A	A	A	
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未達						
成果	令和2年度			令和3年度			
	有観客での招待は行わなかったが、習志野市デーとしての一軍試合の開催は行われ、広報紙やホームページ等での周知を行った。規模縮小での開催となったが、コロナ禍の中、少しでも事業を行えたことは良かった。			習志野市デーとして6月24日の市民招待を行ない、習志野高校の演奏で盛り上げた。広報紙やホームページ等での周知を行った。			
課題	イースタンリーグの有観客試合は行われなかったため、次年度以降の開催に向け、球場のコロナ対策を進めていく。			イースタンリーグを行うためには、防球ネットの課題があり、実施に向けての検討を進める。			
成果	令和4年度			令和5年度			
	ALL FOR CHIBAとして、5月・9月の一軍公式戦への市民招待について広報紙やホームページ等での周知を行った。			ALL FOR CHIBAとして、4月・8月・9月の一軍公式戦への市民招待について広報紙やホームページ等での周知を行った。また、生涯スポーツ課の窓口にユニフォームと選手カレンダーを展示し、来庁者への周知に取り組んでいる。			
課題	イースタンリーグを行うための防球ネット増設については費用対効果の面で課題が大きい。			イースタンリーグについては、主催者より第一カッター球場の防球ネットの高さが足りず安全面に不安があるとの意見があるため、今後開催は難しい。ALL FOR CHIBAについては、今後も広報活動に取り組んでいく。			
成果	令和6年度			令和7年度			
	ALL FOR CHIBAとして、5月・8月・9月の一軍公式戦への市民招待について広報紙等での周知を行った。また、生涯スポーツ課の窓口にユニフォームと選手カレンダーを展示し、来庁者への周知に取り組んでいる。また、ALL FOR CHIBA開催時にZOZOマリンスタジアムにて本市のブースを出展した。			ALL FOR CHIBAとして、一軍公式戦への市民招待について広報紙での周知を4回行った。また、広報掲載に合わせ、市HP、X、LINEを通じた情報発信も行った。ALL FOR CHIBA開催時にZOZOマリンスタジアムにて本市のブースを6月と9月の2度出展した。			
課題	イースタンリーグについては、主催者より第一カッター球場の防球ネットの高さが足りず安全面に不安があるとの意見があるため、今後開催は難しい。ALL FOR CHIBAについては、今後も広報活動に取り組んでいく。			ALL FOR CHIBAでは習志野市の魅力を発信できる機会があるため、他課とも連携し発信機会を有効活用していく必要がある。			
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点			
市民招待を継続的に実施するとともに、広報紙やホームページ、SNS等を活用した周知を行い、市民がプロ野球に親しむ機会を提供することができた。また、市PRブース出展など、事業内容の充実も図られた。一方で、目標として掲げる市内でのイースタン・リーグ開催は施設の管理運営上、実施することが困難であり課題が残る。				今後も広報紙やホームページ、SNS等を活用した効果的な情報発信により、より多くの市民への周知を図る必要がある。市内でのイースタン・リーグ開催は施設の管理運営上、実施困難であることから、一軍公式戦への市民招待枠の拡大やイースタン・リーグ開催に代わる新たな支援について協議していく必要がある。			

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	42	取組名	施設予約システムの充実				担当課 生涯スポーツ課	
概要	市民がいつでも施設の情報の取得や予約ができるよう、施設予約システムの充実を図るため、窓口のある各施設にPCの設置を行う。また、利用者からの意見・要望を聞き、システムのレベルアップ要望を県へ提出する。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 ■施策8		□施策9 □施策10 □施策11 □施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指す		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指す
目標	利用者からの意見・要望を聞き、適切なシステムのレベルアップ要望を県へ提出する。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）		
システムのレベルアップ要望を県へ提出する		提出の有無		提出		提出		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
目標値		提出	提出	提出	提出	提出		
実績値	提出	提出	提出	提出	提出	提出		
決算（参考）	—	—	—	—	—	—		
評価		B	B	A	A	A		
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未達							
令和2年度				令和3年度				
成果	利用者からの意見・要望を聞き、システムのレベルアップ要望を県へ提出することができた。			職員の利便性向上のためのレベルアップ要望を提出することはできたが、利用者からの要望を聞くことができなかった。				
課題	引き続き、利用者にとって使いやすいシステムとなるよう、次年度もレベルアップ要望を行っていく。			利用者からの要望を反映できるよう、日頃、予約システムへ寄せられているご意見等を取りまとめ、要望できるようにする。				
令和4年度				令和5年度				
成果	利用者の利便性向上のため、ネット上で登録手続きが完了するよう6件の要望を行った。			利用者の利便性向上のため及び全団体共通で利便性向上につながるよう5件の要望を行った。				
課題	利用者と職員の利便性が向上するよう、次年度も引き続きレベルアップ要望を行っていく。			利用者と職員等管理者の利便性が向上するよう、次年度も引き続きレベルアップ要望を行っていく。 また、令和7年度に契約が終了するため、令和6年度中にシステムを継続し使用するか判断が必要となる。継続し利用することへの妥当性についても検討を行う。				
令和6年度				令和7年度				
成果	利用者の利便性向上のため及び全団体共通で利便性向上につながるよう5件の要望を行った。			利用者の利便性向上のため及び全団体共通で利便性向上につながるよう5件の要望を行った。				
課題	現行のシステムを管理している富士通Japan株式会社からシステムの終了の通知がきていることから、令和7年度に契約が終了以降、千葉県内での共同運用を継続するか独自システムを開始するか関係各課と検討を行う。			令和9年度から新規システムに変更になることが決定したため、円滑に運用を開始できるよう千葉県と関係各課と協議を行っていく。				
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点				
現行システムについてレベルアップの要望を続けたことで、利用者の利便性向上に寄与することができたと考え。千葉県での共同利用で運営しており、本市の実状に合わせた要望や運用方法ができないため、要望方法等については検討が必要である。				令和9年度からの新規システムの導入にあたっては、これまでに要望した内容が移行できるよう千葉県と協議をしていく必要がある。また、現行システムで行えなかった機能についても要望をしていく必要がある。				

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	44	取組名	スポーツボランティア活動の場や情報の提供				担当課						
							生涯スポーツ課						
概要	オービックシーガルズの試合、七草マラソン大会等の市内スポーツイベント・大会等で、市民がスポーツボランティアとして活躍できる場や情報を提供します。 〔オービックシーガルズの試合（6月、9月）、イースタンリーグ、七草マラソン、市民駅伝、市民まつり、障がい者スポーツ大会、高齢者スポーツ大会〕												
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進					
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5			□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 ■施策10 □施策11 □施策12							
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを目指します					
目標	スポーツボランティアが活躍できる場を提供し、「スポーツを支える」ことで感動や仲間とのコミュニケーションなどスポーツの持つ価値を享受する人を増やします。												
評価指標			評価指標に対する実績値の判断		基準値（令和元年度）		最終目標値（令和7年度）						
スポーツボランティアを依頼したイベント・大会数			イベント・大会数を維持していれば進捗している		8回		8回						
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度							
目標値		8回	8回	8回	8回	8回							
実績値	1回	0回	5回	6回	11回	8回							
（参考） 決算額	—	—	—	—	—	—							
評価		C	C	B	A	A							
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満												
令和2年度				令和3年度									
成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多数のイベントが中止になったことから依頼数は基準値を大幅に下回った。			新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多数のイベントが中止になったことから依頼数は0件であった。									
課題	コロナ禍においても、感染対策を講じながら市民がスポーツボランティアとして活躍できる機会を提供できるよう、関係団体と協力していく必要がある。			コロナ禍においても、感染防止対策を講じながら市民がスポーツボランティアとして活躍できる機会を提供できるよう、関係団体と協力していく必要がある。									
令和4年度				令和5年度									
成果	市民マラソン、市民まつり、障がい者スポーツ大会、高齢者スポーツ大会、オービックシーガルズの試合（9月）の5回は、主催者より依頼を受け、情報提供し、それぞれボランティアが参加した。七草マラソン、イースタンリーグ、オービックシーガルズの試合（6月）は開催されなかった。七草マラソン、イースタンリーグは次年度以降も開催されない可能性が高い。			市民駅伝兼キッズマラソン大会（旧七草マラソン、市民駅伝）、市民まつり、障がい者スポーツ大会、高齢者スポーツ大会、オービックシーガルズ主催試合は、主催者より依頼を受けボランティアを募った。なお、オービックシーガルズ主催の試合に関しては、昨年から1試合増え、2試合開催された。イースタンリーグは施設設備の状況を鑑み今後の開催は困難である。									
課題	大会開催数の減少により、8回の維持が困難となった。今後は、市内でボランティアが必要となるような大会の開催、誘致を検討していくと共に、県内ボランティア募集についても積極的に情報収集し、周知していく必要がある。			新型コロナウイルスは5類に移行されたが、会場都合により七草マラソン及び市民駅伝は一の大会に統合され、大会数が増えることはなかった。市民の方々へ「支える」機会を提供するため、幅広い情報収集を心掛け、取り組み方法を検討する。									
令和6年度				令和7年度									
成果	市民駅伝兼キッズマラソン大会（旧七草マラソン、市民駅伝）、市民まつり、ユニバーサルススポーツ交流会、あじさいクラブ大運動会、寿学級2回、ドリーム・ベースボール、オービックシーガルズ主催試合は、主催者より依頼を受けボランティアを募った。なお、オービックシーガルズ主催の試合に関しては、昨年から2試合増え、4試合開催された。			市民まつり、ユニバーサルススポーツ交流会、あじさいクラブ大運動会、新習志野公民館地区学習圏会議、オービックシーガルズホームゲーム4回は、主催者より依頼を受けてボランティアを募った。令和7年度の市民駅伝兼キッズマラソン大会は、秋津サッカー場人工芝化整備工事のため、会場を変更しての開催だったためボランティアの要請はなかった。									
課題	コロナ禍を経た中で、本計画期間中に初めて目標値達成を果たした。ドリーム・ベースボールは単年度開催となるが、引き続き市内でボランティアが必要となる大会やイベント等について、機会を捉えて開催・誘致に取り組んでいく。			昨年度からは、3回減少する結果となったが、目標値は達成した。引き続き、市内でボランティアが必要となる大会やイベント等について、機会を捉えて開催・誘致に取り組んでいく。									
施策目標値に対する総合評価				次期計画に向けての改善点・留意点									
コロナ禍により活動機会の確保が難しい時期もあったが、事業再開に伴いスポーツボランティア活動の場や情報提供は徐々に回復・充実した。今後、さらなる参加促進に向けた機会創出の充実が必要である。				スポーツ推進委員や市民スポーツ指導員を中心とした活動を引き続き支えながら、委員等が無理なく活動できる環境づくりに配慮することが大切である。そのため、活動内容を工夫しながら、より活しやすい機会の充実と、継続しやすい体制づくりを進めていく。									

習志野市スポーツ推進計画 評価シート

No.	45	取組名	ウォーキング等の環境の整備				担当課	
							公園緑地課	
概要	ハミングロードや谷津干潟遊歩道など、市民が気軽にウォーキングやランニングに取り組める環境を整備します。							
該当施策	柱①	するスポーツの推進		柱②	みるスポーツの推進		柱③	支えるスポーツの推進
	□施策1 □施策2 □施策3 □施策4 □施策5		□施策6 □施策7 □施策8		□施策9 □施策10 ■施策11 □施策12			
	施策目標値	市民の60%が週1回以上スポーツや運動を行うことを目指します		施策目標値	市民の40%が競技会場でスポーツ観戦をすることを目指します		施策目標値	市民の20%がスポーツボランティアなどの活動を経験することを旨します
目標	ハミングロードや谷津干潟遊歩道など、市民が気軽にウォーキングやランニングに取り組める環境を継続的に整備していく。							
評価指標		評価指標に対する実績値の判断			基準値		最終目標値（令和7年度）	
ハミングロードを整備した距離		距離数が目標値以上であれば進捗している			新規事業		100m	
	令和2年度	令和3年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
目標値		100m		100m	100m	100m	100m	
実績値	137m	※路面補修等を7件実施		※路面補修等を7件実施	※路面補修等を10件実施	※公園灯補修等を3件実施	※公園灯交換等を4件実施	
決算額（参考）	9,570,000円	4,865,300円		4,130,830円	7,466,100円	1,482,000円	1,456,840円	
評価		C		B	B	B	B	
	《評価の凡例》 A…目標値達成 B…目標値未達成だが、進捗または現状維持 C…基準値未満							
	令和2年度				令和3年度			
成果	菜々の湯前（本大久保1丁目560番1地先）の園路の整備及びガードパイプなどの安全対策を行った。				公園維持管理事業等で、路面補修及び植栽等7件を行った。 ハミングロード（路面補修） 袖ヶ浦緑道橋（橋面塗装補修工事） 都市計画道路3・3・3号線（伐採工事） 秋津1号緑道（植栽工事）			
課題	継続的な予算の確保が課題となる。				継続的な予算の確保が課題となる。			
	令和4年度				令和5年度			
成果	公園維持管理事業等で、路面補修等を7件行った。 ハミングロード（ダスト舗装300㎡、健康遊具補修、公園灯交換工事、遊歩道補修） 菊田遊歩道（照明灯設置・補修） 茜浜緑地（園路補修）				公園維持管理事業等で、路面補修等を10件行った。 マラソン道路（ダスト舗装補修、公園灯補修、遊具補修） サイクリング道路（公園灯補修） 菊田遊歩道（公園灯補修） 秋津1号緑道（階段補修） 茜浜緑道（舗装補修、公園灯補修）			
課題	継続的な予算の確保が課題となる。				継続的な予算の確保が課題となる。			
	令和6年度				令和7年度			
成果	公園維持管理事業等で、公園灯補修等を3件行った。 マラソン道路（公園灯補修、花壇補修） 菊田遊歩道、鷺沼台遊歩道、茜浜緑地（公園灯補修）				公園維持管理事業等で、公園灯補修等を4件行った。 秋津1号緑道（公園灯補修） マラソン道路（公園灯補修） 茜浜緑道（ベンチ補修・設置、公園灯補修） 袖ヶ浦8号緑地（ベンチ設置）			
課題	継続的な予算の確保が課題となる。				継続的な予算の確保が課題となる。			
施策目標値に対する総合評価					次期計画に向けての改善点・留意点			
限られた予算の中で、市民が気軽にウォーキングやランニングに取り組める環境の整備を継続的に行った。					引き続き予算確保に取り組む。			